

事業番号		3 - 6 - 2		担当課	水道課	担当班	上水道班			
事業名		水道施設の強靱化								
総合計画上の位置づけ	基本目標	「生活・安全」を大切にすまち				予算科目	会計	水道事業会計		
	戦略目標	おいしく安全な水を供給する					款	1	水道事業費用	
法令根拠条例等		-					項	1	営業費用	
個別計画		佐々町水道事業新水道ビジョン					目	1	原水及び浄水費	

1 事業内容

【行動指針】

・近年頻発している異常気象（台風、大雨、地震）にも耐えうる施設の強化を進めながら、災害時においても安定した水を供給できるようにします。

【事業概要】

○施設等の強化

近年頻発する異常気象に備え、風水害等による停電発生を想定し、水道施設の電気設備等の早期復旧を図るため、町内に事業所を有する電気工事事業者((株)セイホウ電設)との協定を締結しています。

○非常用発電機の設置（決算額 賃借料／2,781,900円）

台風期に向け、浄水場の停電発生による施設機能停止を回避するため、仮設非常用発電機を設置しました。

- ・設置発電機 600KVA 1台
- ・設置期間 123日間（R6.8.1～R6.12.1）

○大雨時における対応（決算額 委託料／269,500円 燃料費／184,554円）

令和6年8月29日に接近した台風10号の影響により浄水場が停電した際に、協定に基づき(株)セイホウ電設に非常用発電機への切り替えを依頼し、長期停電による配水事故が起きないように対応しました。

○避難所等の重要給水施設への給水体制の構築

令和6年1月に発生した能登半島地震を受け国が発出した上下水道耐震化計画策定の要請に基づき、本町においても令和7年度から令和11年度の5か年間で計画期間とする避難所等の重要給水施設への給水システム耐震化にかかる『佐々町上下水道耐震化計画』の策定を行いました。

【非常用発電機の設置状況】

【8月29日対応の状況】



2 コスト（単位：円）

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		2,732,400	2,732,400	3,235,954	3,223,000
財源	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0
	一般財源	2,732,400	2,732,400	3,235,954	3,223,000

※賃借、委託計

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
活動	水道普及率【累】	99.9%	%	目標	-	-	-	-	100.0%	100%
				実績	99.9	99.9	99.9	99.9	-	
活動	水道有収率【累】	85.7%	%	目標	-	-	-	-	90.0	102%
				実績	88.0	85.5	90.0	91.6	-	
活動	有形固定資産減価償却率【累】	51.3%	%	目標	-	-	-	-	50.0%	112%
				実績	52.6	45.4	44.1	44.6	-	
活動	水道料金収納率【単】	99.3%	%	目標	99.5%	99.5%	99.5%	99.5%	99.5%	100%
				実績	99.3	99.2	99.3	99.2	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☒ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☐ 適切である ☒ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）		評価の結果	
近年異常気象による災害が多発しており、事前の準備により、実際に災害が起きた際の被害を未然に防ぐことができました。		A	業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		6 - 2 - 5		担当課	水道課	担当班	上水道班
事業名		公共施設等の有効活用と適正管理					
総合計画上の位置づけ	基本目標	「行政・財政」が持続可能なまち			予算科目	会計	水道事業会計
	戦略目標	健全な財政運営を行う				款	1 水道事業費用
	法令根拠条例等	-				項	1 営業費用
	個別計画	佐々町公共施設等総合管理計画				目	1 原水及び浄水費 他

1 事業内容

【行動指針】				
・ 町が保有する公共施設等について、公共施設等総合管理計画に基づき、長期的な視点を持って更新・統廃合・長寿命化を決定し、堅実な資産管理を実現します。				
【事業概要】				
維持管理経費（水道事業）				
◆浄水場				
節	内容等	金額（円）	※税込み	比較
		5年度(A)	6年度(B)	(B)-(A)
備用品費	管理用消耗品費	524,966	386,101	△ 138,865
光熱水費	公共下水道使用料	17,160	17,160	0
委託料	浄水場維持管理業務委託、浄水場汚泥処理業務委託、浄水場水質検査業務委託、浄水場内水質監視機器分解整備業務委託 など	47,032,120	49,769,910	2,737,790
修繕料	浄水場施設修繕料	1,961,850	5,728,250	3,766,400
動力費	浄水場動力費	23,072,700	24,678,833	1,606,133
薬品費	薬品費（ポリ塩化アルミニウム、次亜塩素酸ソーダ、希硫酸）	5,954,618	5,912,393	△ 42,225
材料費	浄水場諸材料	198,104	174,636	△ 23,468
	合 計	78,761,518	86,667,283	7,905,765
【主な増減理由】				
委託料については、浄水場維持管理業務委託の契約期間満了に伴う入札の実施（委託期間：R6～R8）等により、2,737千円の増となりました。				
さらに、動力費については、配水量が約4.3万m ³ 減少していますが、基本料金の値上げや国の電気料補助の適用期間により、1,606千円の増となりました。				
薬品費については、処理水量の減により42千円の減となりました。				
◆配水池・ポンプ所等				
節	内容等	金額（円）	※税込み	比較
		5年度(A)	6年度(B)	(B)-(A)
備用品費	残留塩素測定試薬、工事関係消耗品費	600,649	165,800	△ 434,849
委託料	水道量水器取替業務委託、漏水調査業務委託、配水池・ポンプ所清掃業務委託 など	11,888,800	9,864,800	△ 2,024,000
賃借料	配水池及び配水管用地借上料 ※非課税	234,300	234,300	0
修繕料	排水管及び機械器具修繕	8,164,266	11,223,630	3,059,364
動力費	配水池・ポンプ所動力費	8,697,888	10,118,194	1,420,306
材料費	管材料費等	1,194,263	1,050,101	△ 144,162
	合 計	30,780,166	32,656,825	1,876,659
【主な増減理由】				
委託料は、定例的な委託業務と年次的な施設設備等点検の実施計画により令和5年度と比較し2,024千円の減となりました。				
修繕費については、漏水修繕の対応に加え施設の緊急修繕により3,059千円の増となりました。				
また、動力費については、浄水場施設と同様の理由により、1,420千円の増となりました。				

2 コスト（単位：円）

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		115,928,298	109,541,684	119,324,108	133,534,000
財源	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0
	一般財源	115,928,298	109,541,684	119,324,108	133,534,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
活動	経常収支比率【単】	80.7% (H30:90.7%)	%	目標	95未満	95未満	95未満	95未満	95未満	104%
				実績	80.3	90.2	91.0	91.5	-	
活動	実質公債費比率【単】	8.9%	%	目標	15未満	15未満	15未満	15未満	15未満	179%
				実績	8.7	8.6	8.8	8.4	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点			項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 (住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか)		☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 (住民のニーズに対して、意図が適切であるか)		☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)		☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 (評価指標や意図をどの程度達成しているか)		☒ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	2
	・対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)		☐ 適切である ☒ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)		☐ 適切である ☒ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)		☐ 効率的である ☒ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	2
	・投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)		☐ 適切である ☒ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)		☐ 適切である ☒ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）		
水道施設の維持管理は安全で安心な水が供給できるよう適切な保守・点検・修繕が実施できました。引き続き、各種計画に基づき、社会情勢や新技術の動向を踏まえ、業務効率化を進めていきたいと考えています。		評価の結果 B 課題が少しあり、業務の一部見直しが必要

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☐ 事業維持・費用維持
☒ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		3 - 6 - 1		担当課	水道課	担当班	上水道班			
事業名		水の安定供給								
総合計画上の位置づけ	基本目標	「生活・安全」を大切にするまち				予算科目	会計	水道事業会計		
	戦略目標	おいしく安全な水を供給する					款	1	資本的支出	
法令根拠条例等		－					項	1	建設改良費	
個別計画		佐々町水道事業新水道ビジョン					目	2	施設改良費	

1 事業内容

【行動指針】

- ・ 今後の水道施設資産管理を行う新水道ビジョン及び経年劣化に伴う施設の状況把握、計画的な整備を進める更新計画を基に、水道施設の更新強化に取り組みます。
- ・ 漏水等があった際にも迅速な修繕を行うことで安定供給を維持するとともに、有収率の向上に努めます。

【事業概要】

○浄水場、配水池・ポンプ所の整備を行いました。【6件】

種別	工事名	決算額（税込）	
浄水場	浄水場送水ポンプ室築造工事（継続費）	94,541,200	※令和7年度へ通次繰越
浄水場	浄水場1号沈殿池フロキュレータ更新工事（その2）	6,817,800	
浄水場	2号ろ過池GLFコントロールユニット更新工事	17,710,000	※令和5年度からの26条繰越
配水池	角山配水池計装設備改修工事	6,729,800	
ポンプ所	迎木場地区増圧ポンプ新設工事	16,225,000	
ポンプ所	角山地区増圧ポンプ新設工事	7,067,500	
	計	149,091,300	

○送水管、配水管の新設・更新を行いました。【5件】

種別	工事名	決算額（税込）
配水管	町道三柱神社線配水管更新工事	4,048,000
配水管	町道中央海岸線配水管更新工事（3工区）	22,300,300
配水管	平野地区配水管更新工事（6工区）	21,914,200
配水管	口石地区配水管更新工事	27,011,600
配水管	野寄地区配水管更新工事	20,157,500
	計	95,431,600

○配水困難家庭にかかるポンプ設置工事を行いました。【1件】

種別	工事名	決算額（税込）
その他	迎木場地区家庭用給水ポンプ設置工事	1,637,900
	計	1,637,900

【歳入財源内訳】

企業債：決算書P37 建設改良費（工事請負費 分） 181,000千円

2 コスト （単位：円）

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		608,688,970	344,620,300	246,160,800	551,910,680
財源	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	その他特定財源	1,522,000	1,320,000	0	810,000
	地方債	450,500,000	252,400,000	181,100,000	413,700,000
	一般財源	156,666,970	90,900,300	65,060,800	137,400,680

1 事業内容

業 務 実 績 表

区 分	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	比較(対前年度)		比較(対R3年度)	
					増 減	比 率	増 減	比 率
人	人	人	人	人		%		%
総 人 口	13,965	14,047	13,866	13,835	△ 31	99.78	△ 130	99.07
計 画 人 口	13,500	13,500	13,500	13,500	0	100.00	0	100.00
現 在 給 水 人 口	13,949	14,031	13,850	13,823	△ 27	99.81	△ 126	99.10
%	%	%	%	%		%		%
普 及 率	99.9	99.9	99.9	99.9	0	100.03	0	100.00
戸	戸	戸	戸	戸		%		%
給 水 件 数	6,396	6,477	6,494	6,492	△ 2	99.97	96	101.50
m ³	m ³	m ³	m ³	m ³		%		%
配 水 量	2,398,924	2,461,261	2,301,498	2,258,490	△ 43,008	98.13	△ 140,434	94.15
有 収 水 量	2,111,858	2,103,947	2,070,539	2,068,135	△ 2,404	99.88	△ 43,723	97.93
%	%	%	%	%		%		%
有 収 率	88.03	85.48	89.96	91.57	1.61	100.57	3.54	104.02
有収水量 配水量 × 100								
m	m	m	m	m		%		%
配 水 管 延 長	96,123	99,765	103,379	98,770	△ 4,609	95.54	2,647	102.75
人	人	人	人	人		%		%
職 員 数	6	6	5	5	0	100.00	△ 1	83.33
円/m ³	円/m ³	円/m ³	円/m ³	円/m ³		%		%
供 給 単 価	158.39	158.44	158.61	158.67	0.06	100.04	0.28	100.18
給水収益 有収水量								
円/m ³	円/m ³	円/m ³	円/m ³	円/m ³		%		%
給 水 原 価	116.76	124.76	129.94	143.13	13.19	110.15	26.37	122.58
経常費用－(受託工 事費＋材料及び不 用品売却原価＋附 帯事業費)－長期前 受金戻入 有収水量								

【用語の解説】

用 語	内 容	備 考
計 画 人 口	事業計画上の給水を行う人口のことを言います。	
現 在 給 水 人 口	実際に給水を行っている人口を言います。	
普 及 率	給水区域内人口のうち、実際に給水している人口の割合のことを言います。	13,823人／13,835人
配 水 量	浄水場から送り出した水量のことを言います。	
有 収 水 量	浄水場から出た水量(配水量)のうち、実際に使用され水道料金収入につながった水量のことを言います。	
有 収 率	年間配水量のうち、水道料金収入のあった水量の割合のことを言います。直接水道事業の経営に影響するため、高い値に維持することが求められます。	2,068,135m ³ ／2,258,490m ³
供 給 単 価	水道水1m ³ の平均販売単価を表します。給水収益を年間有収水量で除して求めます。この値が低いほど、水道利用者へのサービスが良好であることを示しています。	
給 水 原 価	水道水1m ³ を生産するのにかかる原価を表しています。この値が低いほど、生産性が高いことを示しています。	

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
活動	水道普及率【果】	99.9%	%	目標	-	-	-	-	100.0%	100%
				実績	99.9	99.9	99.9	99.9	-	
活動	水道有収率【果】	85.7%	%	目標	-	-	-	-	90.0	102%
				実績	88.0	85.5	90.0	91.6	-	
活動	有形固定資産減価償却率【果】	51.3%	%	目標	-	-	-	-	50.0%	112%
				実績	52.6	45.4	44.1	44.6	-	
活動	水道料金収納率【単】	99.3%	%	目標	99.5%	99.5%	99.5%	99.5%	99.5%	100%
				実績	99.3	99.2	99.3	99.2	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 (住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか)	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 (住民のニーズに対して、意図が適切であるか)	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 (評価指標や意図をどの程度達成しているか)	☒ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	2
	・対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	☐ 適切である ☒ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	☐ 適切である ☒ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	☒ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	☐ 適切である ☒ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）		評価の結果	
水道施設の強化及び老朽化に伴う配水管更新を進めることができました。浄水場送水ポンプ室築造工事については、令和8年度の供用開始に向け計画通り進めていきます。		A	業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

【このページは空白です】

事業番号		3 - 6 - 3		担当課	水道課	担当班	上水道班			
事業名		健全な経営の確立								
総合計画上の位置づけ	基本目標	「生活・安全」を大切にするまち				予算科目	会計	水道事業会計		
	戦略目標	おいしく安全な水を供給する					款	1	水道事業	
法令根拠条例等		－					項	1	営業費用	
個別計画		佐々町水道事業新水道ビジョン					目	4	総係費	

1 事業内容

【行動指針】

- ・中長期的視点に立った水道事業の経営基盤の強化と財政安定化に取り組めます。
- ・想定される人口減少を踏まえた中で、将来を見据えた小型化（ダウンサイジング）や性能見直し（スペックダウン）も更新計画の中で見直しを行うことでコスト削減を検討し、対策に取り組めます。

【事業概要】

○中長期的な水道事業計画

本年度は、令和7年度から令和16年度を計画期間とする、『佐々町水道ビジョン・経営戦略』の策定を行いました。現在の料金体系で事業を進めていくと計画内の試算では令和9年決算で経常収支が赤字となる見込みとなり、令和14年度決算時点で留保している現金が無くなる試算となりました。

また、令和6年1月に発生した能登半島地震を受け国が発出した上下水道耐震化計画策定の要請に基づき、本町においても令和7年度から令和11年度を計画期間とする避難所等の重要給水施設への給水システム耐震化計画にかかる『佐々町上下水道耐震化計画』の策定を行いました。

今後の安定的な事業運営に向け、経常収支の改善に向けた水道料金改定の検討やさらなる経費縮減に向けた取り組みが課題として抽出されました。

○資金不足比率の状況

公営企業の資金不足を、公営企業の事業規模である料金収入の規模と比較して指標化し、経営状況の悪化の度合いを示すものです。

資金不足比率：▲241.10% 【経営健全化基準：20.0%】 ※黒字の場合は▲で表示されます。
(R5：▲278.76%)

○業務効率化、利便性の向上（決算額 委託料／352,770円）

令和6年7月13日より、水道の利用開始・休止・口座振替利用申込書送付依頼について、従来の窓口（郵送）受付に加え、インターネットでの申し込みが出来るように新たに整備し、手続きの利便性の向上を図りました。

〈インターネット手続き開始後の状況〉

	全体申請件数	うちインターネット申込件数	割合
開始	469件	131件	27.93%
休止	482件	39件	8.09%
合計	951件	170件	17.88%

2 コスト （単位：円）

区分	R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費	0	0	352,770	0
財源	国庫支出金			
	県支出金			
	その他特定財源			
	地方債			
	一般財源		352,770	

1 事業内容

令和6年度 上水道料金収納状況

令和7年3月31日現在

年 度		前 年 度 繰 越 額 (6年度は調定額)		6 年 度 収 納 額		未 納 額		調定増減		収 納 率	不 納 欠 損		次 年 度 滞 納 繰 越 額	
		件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額		件 数	金 額	件 数	金 額
	H29	1	1,080	1	1,080	0	0	0	0	100.00%	0	0	0	0
	H30	1	1,740	1	1,740	0	0	0	0	100.00%	0	0	0	0
	R1	15	22,200	2	2,500	13	19,700	0	0	11.26%	11	17,500	2	2,200
	R2	20	27,420	3	4,710	17	22,710	0	0	17.18%	0	0	17	22,710
	R3	28	65,700	5	36,880	23	28,820	0	0	56.13%	0	0	23	28,820
	R4	31	38,540	5	6,710	26	31,830	0	0	17.41%	0	0	26	31,830
	R5	968	2,335,050	948	2,307,330	20	27,720	0	0	98.81%	0	0	20	27,720
	小計	1,064	2,491,730	965	2,360,950	99	130,780	0	0	94.75%	11	17,500	88	113,280
R6		77,884	360,983,390	76,821	358,238,120	1,063	2,745,270	0	0	99.24%	0	0	1,063	2,745,270
合 計		78,948	363,475,120	77,786	360,599,070	1,162	2,876,050	0	0	99.21%	11	17,500	1,151	2,858,550

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
活動	水道普及率【累】	99.9%	%	目標	-	-	-	-	100.0%	100%
				実績	99.9	99.9	99.9	99.9	-	
活動	水道有収率【累】	85.7%	%	目標	-	-	-	-	90.0	102%
				実績	88.0	85.5	90.0	91.6	-	
活動	有形固定資産減価償却率【累】	51.3%	%	目標	-	-	-	-	50.0%	112%
				実績	52.6	45.4	44.1	44.6	-	
活動	水道料金収納率【単】	99.3%	%	目標	99.5%	99.5%	99.5%	99.5%	99.5%	100%
				実績	99.3	99.2	99.3	99.2	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している ☒ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	2
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☐ 適切である ☒ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☐ 適切である ☒ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果	A	業務の内容は適切である
さらなる財源の確保や効率的な運営による経費の縮減など、近い将来に向け解決すべき課題が顕在化しており、早急な運営方針の検討が求められているものと評価しています。			

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

【このページは空白です】

事業番号		6 - 2 - 5		担当課	水道課	担当班	下水道班			
事業名		公共施設等の有効活用と適正管理								
総合計画上の位置づけ	基本目標	「行政・財政」が持続可能なまち				予算科目	会計	公共下水道事業会計		
	戦略目標	健全な財政運営を行う					款	1	下水道事業費用	
法令根拠条例等		-					項	1	営業費用	
個別計画		佐々町公共施設等総合管理計画					目	2	汚水ポンプ場費	他

1 事業内容

【行動指針】				
・町が保有する公共施設等について、公共施設等総合管理計画に基づき、長期的な視点を持って更新・統廃合・長寿命化を決定し、堅実な資産管理を実現します。				
【事業概要】				
◆浄化管理センター				
節	内容等	金額（円） ※税込み		比較
		5年度(A)	6年度(B)	(B)-(A)
備用品費	浄化管理センター備用品費	850,410	1,111,222	260,812
燃料費	浄化管理センター燃料費	11,608	17,430	5,822
光熱水費	浄化管理センター水道料、旧農業集落排水施設電気料	57,891	57,083	△ 808
委託料	ストックマネジメント計画策定支援業務委託、浄化管理センター運転維持管理業務委託、浄化管理センター汚泥処理業務委託、浄化管理センター水質汚泥及び環境調査業務委託 など	132,554,002	142,550,804	9,996,802
修繕料	浄化管理センター修繕費	10,992,740	3,079,450	△ 7,913,290
動力費	浄化管理センター電気料	33,707,156	28,442,189	△ 5,264,967
合 計		178,173,807	175,258,178	△ 2,915,629
【主な増減理由】				
委託料については、汚泥排出量の増及びストックマネジメント計画策定支援業務委託の実施により、9,996千円の増となりました。				
修繕料については、令和5年度と比べ大規模な機器修繕等が少なく、7,913千円の減となりました。				
また、動力費については、処理水量が約2万3千m ³ 増加しましたが、令和5年10月から契約会社の変更を行ったことにより基本料金等が下がり5,265千円の減となりました。				
◆汚水ポンプ場（大新田中継ポンプ場・マンホールポンプ所）				
節	内容等	金額（円） ※税込み		比較
		5年度(A)	6年度(B)	(B)-(A)
備用品費	大新田中継ポンプ場等備用品費	148,885	10,414	△ 138,471
光熱水費	大新田中継ポンプ場水道料	13,200	13,200	0
委託料	ストックマネジメント計画策定支援業務委託、大新田中継ポンプ場清掃業務委託、大新田中継ポンプ場電気工作物保安管理業務委託 など	1,962,180	4,961,680	2,999,500
修繕料	大新田中継ポンプ場等施設修繕料	120,670	0	△ 120,670
動力費	大新田中継ポンプ場等電気料	4,708,264	5,642,562	934,298
合 計		6,953,199	10,627,856	3,674,657
【主な増減理由】				
委託料については、ストックマネジメント計画策定支援業務委託の実施により、2,999千円の増となりました。				
動力費については、浄化管理センターと同様に令和5年10月から契約会社を変更していますが、季節別単価の増により、934千円の増となりました。				

2 コスト（単位：円）

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		203,823,643	192,601,568	200,343,492	278,749,000
財源	国庫支出金	10,500,000	0	7,190,000	27,509,000
	県支出金	0	0	0	0
	その他特定財源	0	0	1,893,363	6,375,000
	地方債	0	0	0	0
	一般財源	193,323,643	192,601,568	191,260,129	244,865,000

1 事業内容

◆雨水ポンプ場（小浦雨水ポンプ場・大新田第2排水ポンプ場）

節	内容等	金額（円）		※税込み	比較 (B) - (A)
		5年度(A)	6年度(B)		
備用品費	小浦雨水ポンプ場備用品費、大新田第2排水ポンプ場備用品費	48,000	131,710		83,710
燃料費	小浦雨水ポンプ場燃料費、大新田第2排水ポンプ場燃料費	626,683	832,025		205,342
光熱水費	小浦雨水ポンプ場水道料、大新田第2排水ポンプ場水道料、干拓ポンプ場電気料	41,060	28,250		△ 12,810
委託料	ストックマネジメント計画策定支援業務委託、小浦雨水ポンプ場運転管理業務委託、大新田第2排水ポンプ場運転管理業務委託、大新田第2排水ポンプ場エンジン設備点検業務委託 など	4,253,700	11,271,100		7,017,400
修繕料	大新田第2排水ポンプ場電気機械設備修繕料	1,218,800	28,600		△ 1,190,200
動力費	大新田第2排水ポンプ場電気料	1,286,319	1,489,783		203,464
合 計		7,474,562	13,781,468		6,306,906

【主な増減理由】

委託料については、ストックマネジメント計画策定支援業務委託の実施により、7,017千円の増となりました。
 修繕費については、前年度と比較し大規模な機械修繕等がなく、1,190千円の減となりました。
 動力費については、汚水ポンプ場と同様の理由により、203千円の増となりました。

◆し尿等前処理施設

節	内容等	金額（円）		※税込み	比較 (B) - (A)
		5年度(A)	6年度(B)		
動力費	し尿等前処理施設動力費		675,990		675,990
合 計		0	675,990		675,990

【主な増減理由】

建設工事が完了し、令和6年11月1日供用開始となり、運転にかかる動力費の支出を行いました。

【歳入財源内訳】

国庫支出金 : 決算書P28 社会資本整備総合交付金（汚水事業） 4,098千円
 決算書P28 社会資本整備総合交付金（雨水事業） 3,092千円

一般会計負担金：決算書P28 し尿等前処理に対する一般会計補助金（基準外） 1,893千円
 ※し尿等処理分下水道投入にかかる施設負荷分

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
活動	経常収支比率【単】	80.7% (H30:90.7%)	%	目標	95未満	95未満	95未満	95未満	95未満	104%
				実績	80.3	90.2	91.0	91.5	-	
活動	実質公債費比率【単】	8.9%	%	目標	15未満	15未満	15未満	15未満	15未満	179%
				実績	8.7	8.6	8.8	8.4	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・ 事業根拠の再確認 (住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか)	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・ 意図の適切性 (住民のニーズに対して、意図が適切であるか)	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
・ 自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	☒ 妥当である		
	☐ 検討の余地がある		
	☐ 検討の余地が多い		
有効性	・ 意図の達成度 (評価指標や意図をどの程度達成しているか)	☒ 目標を達成している	3
		☐ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
	・ 対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・ 業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	☒ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	☐ 適切である	
		☒ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）		
現施設の管理は、安全に使用できるよう保守、点検、修繕を行っています。 引き続き、安定的な事業運営に向け、施設の効率性をあげ経費縮減につながるような改修、修繕を実施していく必要があります。		評価の結果 A 業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☐ 事業維持・費用維持
☒ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

【このページは空白です】

事業番号		3 - 5 - 3		担当課	水道課	担当班	下水道班			
事業名		し尿等前処理施設の整備稼働								
総合計画上の位置づけ	基本目標	「生活・安全」を大切にするまち				予算科目	会計	公共下水道事業会計		
	戦略目標	水環境を守り、育てる					款	1	資本的支出	
法令根拠条例等		-					項	1	建設改良費	
個別計画		佐々町一般廃棄物処理基本計画、佐々町公共下水道事業計画					目	3	汚水処理場建設改良費	

1 事業内容

【行動指針】

- ・し尿や浄化槽汚泥の適正な処理のため、し尿等前処理施設を建設し、計画的で円滑な施設整備に取り組みます。

【事業概要】（決算額 設計・施工監理17,171,800円、建設工事357,953,900円）

○本年度は、施設完成年度として建設を進め、令和6年10月29日に竣工し、令和6年11月1日に供用開始しました。

〈事業全体詳細〉※R3～R6

事業費計 739,337,000円	財源計 674,555,000円	一般財源計 64,782,000円
（うち業務・委託65,953,300円）	（うち国交付金360,055,000円）	
建設工事673,383,700円	起債借入314,500,000円	

【地元説明会等開催概要】

（1）建設にかかる地元説明会（進捗報告）

- ・開催日時 令和6年6月25日 18時30分
- ・開催場所 水道町内会集会所
- ・出席者 22名（うち16名は町及び事業者）

（2）施設見学会（地元住民向け）

- ・開催日 令和6年10月25日
- ・参加者 10名（町、施工業者除く）

（3）施設落成式

- ・開催日 令和6年10月31日
- ・出席者 16名（町議会議員、町内会長、施工業者、施工監理業者）

【歳入財源内訳】

国庫支出金 : 決算書P38 社会資本整備総合交付金（汚水事業）181,603千円

地方債 : 決算書P38 汚水事業 174,400千円

【施設外観】



【稼働（搬入）状況】



2 コスト（単位：円）

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		127,177,500	205,029,800	375,125,700	0
財源	国庫支出金	60,000,000	102,450,000	181,603,000	0
	県支出金	0	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0	0
	地方債	54,000,000	92,300,000	174,400,000	0
	一般財源	13,177,500	10,279,800	19,122,700	0

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	公共下水道水洗化率【累】 （公共下水道接続人口/公共下水道整備地区人口）	85.7%	%	目標	-	-	-	-	88.0%	102%
				実績	86.7	87.7	88.3	89.4	-	
成果	生活排水処理率【累】 （公共下水道・農集排・浄化槽整備人口/行政人口）	85.7%	%	目標	-	-	-	-	88.0%	101%
				実績	85.7	86.8	88.3	89.3	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・ 事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・ 意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・ 自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
有効性	・ 意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☒ 目標を達成している	3
		☐ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
	・ 対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・ 業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）		
計画通り竣工し、供用開始を行うことができました。 今後は、適切な施設運営を行いながら、適正な汚水処理を進めていきます。	評価の結果	A 業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業評価シート

(令和 6 年度)

【決算書P120】 【公共下水道P38～P40】

事業番号		3 - 5 - 1		担当課	水道課	担当班	下水道班			
事業名		公共下水道・水洗化の推進								
総合計画上の位置づけ	基本目標	「生活・安全」を大切にするまち				予算科目	会計	公共下水道事業会計		
	戦略目標	水環境を守り、育てる					款	1	資本的支出	
法令根拠条例等		－					項	1	建設改良費	
個別計画		佐々町一般廃棄物処理基本計画、佐々町公共下水道事業計画、ストックマネジメント計画（第1期）					目	2	汚水処理場建設改良費	

1 事業内容

【行動指針】

- ・地域特性に応じ、効率的で経済的な公共下水道を整備します。とりわけ、老朽施設・設備の更新・長寿命化や自然災害に耐える施設の強靱化に取り組みます。
- ・下水道への加入促進や合併処理浄化槽の設置の啓発・普及に広報紙等を活用して取り組みます。
（令和6年11月広報紙に掲載）

【事業概要】

〈公共下水道事業会計〉

○浄化管理センター施設設備にかかる設計、更新工事を行いました。【3件】

種別	工事名	決算額（税込）
施設・設備	浄化管理センター耐震工事設計業務委託料	8,000,000
施設・設備	浄化管理センター改築更新実施設計業務委託料	16,290,000
設備	浄化管理センター通報装置更新工事	1,685,200

※令和6年度からの26条繰越

○汚水ポンプ場施設設備にかかる更新工事を行いました。【2件】

種別	工事名	決算額（税込）
施設・設備	大新田中継ポンプ場耐震補強・改築更新工事（継続費）	18,720,000
設備	マンホールポンプ場通報装置更新工事（古川・葭ノ浦）	4,950,000

※令和7年度へ通次繰越

○排水本管の新設、個人宅地への取付管の布設を行いました。【9件】

種別	工事名	決算額（税込）
管渠（新設）	松瀬前地区污水管布設工事	29,396,400
取付管（新設）	新築家庭等への取付管布設工事（8件）	5,315,200

○雨水ポンプ場施設設備耐震工事にかかる業務委託を行いました。【1件】

種別	工事名	決算額（税込）
施設	小浦雨水ポンプ場非線形解析業務委託料	24,410,000

○雨水暗渠の補修工事を行いました。【1件】

種別	工事名	決算額（税込）
雨水	中央地区雨水暗渠補修工事（1工区）	17,392,100

2 コスト

（単位：円）

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		41,931,000	79,471,161	136,824,431	438,254,000
財源	国庫支出金	13,178,000	9,890,000	43,824,000	172,850,000
	県支出金	846,000	562,000	597,000	1,443,000
	その他特定財源	0	0	0	0
	地方債	17,100,000	49,300,000	76,500,000	199,700,000
	一般財源	10,807,000	19,719,161	15,903,431	64,261,000

1 事業内容

○松瀬前地区污水管布設工事においては、区域内未整備であった0.7haの取り込みが完了し、現在計画の区域内における污水管の整備が完了しました。

○取付管布設工事においては、新規住宅が6軒、既存住宅の汲み取りからの転換が2軒、計8軒分の布設を行いました。

○水洗化率

令和5年度 88.33% ⇒ 令和6年度 89.38% (前年度比 1.05ポイント増)

○水洗化戸数

令和5年度 5,075戸 ⇒ 令和6年度 5,097戸 (前年度比 22戸増)

○污水处理普及率

≪人口≫ 令和5年度 98.14% ⇒ 令和6年度 98.37% (前年度比 0.23ポイント増)

≪世帯≫ 令和5年度 97.80% ⇒ 令和6年度 98.09% (前年度比 0.29ポイント増)

〈一般会計：浄化槽〉

○合併処理浄化槽設置整備事業補助金（決算額 3,726,000円）

※4款 衛生費／1項 保健衛生費／12目 合併浄化槽設置整備事業費

新たに合併浄化槽を設置する方に対し、補助金を交付しました。

・ 5人槽：6基 7人槽：2基 計8基

○合併処理浄化槽維持管理費補助金（決算額 6,939,531円）

※4款 衛生費／1項 保健衛生費／12目 合併浄化槽設置整備事業費

浄化槽の維持管理費の一部について補助を行いました。

・ 延べ226件（実人数222人）

【歳入財源内訳】

国庫支出金 : 決算書P38 社会資本整備総合交付金（污水事業）31,010千円

決算書P38 社会資本整備総合交付金（雨水事業）12,150千円

一般会計決算書P26 循環型社会形成推進交付金（合併浄化槽設置事業分1/3） 664千円

県支出金 : 一般会計決算書P34 長崎県浄化槽設置整備事業補助金（1/3） 597千円

地方債 : 決算書P38 污水事業 49,000千円

決算書P38 雨水事業 27,500千円

1 事業内容

業 務 実 績 表

区 分	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	比較(対前年度)		比較(対R3年度)	
					増 減	比 率	増 減	比 率
	人	人	人	人		%		%
総 人 口	13,965	14,047	13,866	13,835	△ 31	99.78	△ 130	99.07
供 用 開 始 人 口	12,962	13,054	12,905	12,839	△ 66	99.49	△ 123	99.05
現 在 水 洗 化 人 口	11,233	11,450	11,399	11,475	76	100.67	242	102.15
	%	%	%	%		%		%
水 洗 化 率	86.66	87.71	88.33	89.38	1.05	101.18	2.72	103.13
	戸	戸	戸	戸		%		%
水 洗 化 戸 数	4,800	4,936	5,075	5,097	22	100.43	297	106.19
	m ³	m ³	m ³	m ³		%		%
排 水 量	1,796,974	1,816,777	1,844,635	1,867,233	22,598	101.23	70,259	103.91
有 収 水 量	1,682,053	1,707,963	1,716,432	1,728,742	12,310	100.72	46,689	102.78
	%	%	%	%		%		%
有 収 率	93.60	94.01	93.05	92.58	△ 0.47	99.49	△ 1.02	98.91
$\frac{\text{有収水量}}{\text{排水量}} \times 100$								
	人	人	人	人		%		%
職 員 数	2	2	2	3	1	150.00	1	150.00

【用語の解説】

用 語	内 容	備 考
供 用 開 始 人 口	公共下水道整備が終了し公共下水道の利用が可能になった人口のことを言います。	
現 在 水 洗 化 人 口	公共下水道を実際に使用している人口を言います。	
水 洗 化 率	供用開始人口に対する水洗化人口の割合のことを言います。	11,475人／12,839人
排 水 量	佐々町では使った水道水の水量を汚水排水量とみなしています。(水道水の使用水量と汚水排水量にはわずかな誤差がありますが、排水量を測定するとした場合、システムの構築や検針にかかる経費が膨大になるため、合理的な算出方法として多くの自治体で採用されています。)	
有 収 水 量	下水処理場で処理した全汚水量のうち、下水道使用料の徴収の対象となる水量を言います。	
有 収 率	処理した汚水のうち、下水道使用料徴収の対象となる有収水の割合を示します。有収率が高いほど下水道使用料徴収の対象とすることができない不明水が少なく、効率的であると言えます。	1,728,742m ³ ／1,867,233m ³

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	公共下水道水洗化率【累】 （公共下水道接続人口/公共下水道整備地区人口）	85.7%	%	目標	-	-	-	-	88.0%	102%
				実績	86.7	87.7	88.3	89.4	-	
成果	生活排水処理率【累】 （公共下水道・農集排・浄化槽整備人口/行政人口）	85.7%	%	目標	-	-	-	-	88.0%	101%
				実績	85.7	86.8	88.3	89.3	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
有効性	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☒ 目標を達成している	
		☐ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
効率性	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）		
建物や機器等の老朽化が進んでいる中で、長寿命化や施設の強靱化のための業務を発注することができました。 今後も、財政状況を注視しながら、ストックマネジメント計画などの各種計画に基づき計画的な更新事業を進めていきます。		
評価の結果	A	業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		3 - 5 - 2				担当課	水道課	担当班	下水道班
事業名		健全な経営の確立							
総合計画上の位置づけ	基本目標	「生活・安全」を大切にするまち					予算科目	会計	公共下水道事業会計
	戦略目標	水環境を守り、育てる						款	1 資本的支出
法令根拠条例等		-						項	1 建設改良費
個別計画		佐々町一般廃棄物処理基本計画、佐々町公共下水道事業計画、ストックマネジメント計画（第1期）						目	3 汚水処理場建設改良費

1 事業内容

【行動指針】

・中長期的視点に立った公共下水道事業の経営基盤の強化と財政安定化に取り組みます。

【事業概要】

○中長期的な下水道事業計画

下水道事業については、雨水、し尿前処理事業や下水道収支不足分を一般会計補助金として受け入れ運営を行いました。
 その中で、本年度は、令和7年度から令和16年度を計画期間とする、『佐々町下水道ビジョン・経営戦略』の策定を行いました。

また、令和6年1月に発生した能登半島地震を受け国が発出した上下水道耐震化計画策定の要請に基づき、本町においても令和7年度から令和11年度を計画期間とする避難所等の重要給水施設からの排水システム耐震化計画にかかる『佐々町上下水道耐震化計画』の策定を行いました。

平成9年度の供用開始から約30年を迎え、これから先、経年の更新や耐震化など多くの更新需要が見込まれます。

将来の安定的な事業運営に向け、自主財源の確保にかかる使用料改定の検討や計画的な更新による施設効率化などの経費縮減に向けた取り組みの検討を行っていきます。

○資金不足比率の状況

公営企業の資金不足を、公営企業の事業規模である料金収入の規模と比較して指標化し、経営状況の悪化の度合いを示すものです。

資金不足比率：▲8.35% 【経営健全化基準：20.0%】 ※黒字の場合は▲で表示されます。

(R5：▲9.89%)

2 コスト (単位：円)

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		0	0	0	0
財源	国庫支出金				
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源				

1 事業内容

令和6年度 下水道使用料収納状況

令和7年3月31日現在

年 度		前年度繰越額 (6年度は調定額)		6年度収納額		未 納 額		調定増減		収納率	不 納 欠 損		次 年 度 滞 納 繰 越 額	
		件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額		件 数	金 額	件 数	金 額
過 年 度 分	R1	14	21,430	1	1,400	13	20,030	0	0	6.53%	11	17,500	2	2,530
	R2	11	14,420	0	0	11	14,420	0	0	0.00%	0	0	11	14,420
	R3	29	35,750	7	8,360	22	27,390	0	0	23.38%	0	0	22	27,390
	R4	26	33,040	5	6,710	21	26,330	0	0	20.31%	0	0	21	26,330
	R5	736	1,799,630	721	1,778,730	15	20,900	0	0	98.84%	0	0	15	20,900
	小計	816	1,904,270	734	1,795,200	67	109,070	0	0	94.27%	11	17,500	71	91,570
R6		60,964	298,239,550	60,163	296,154,880	801	2,084,670	0	0	99.30%	0	0	801	2,084,670
合 計		61,780	300,143,820	60,897	297,950,080	868	2,193,740	0	0	99.27%	11	17,500	872	2,176,240

令和6年度 公共下水道事業受益者加入金収納状況

令和7年3月31日現在

年 度		前年度繰越額 (6年度は調定額)		還 付 未 済		6年度収納額		未 納 額		収納率	不 納 欠 損		次年度滞納繰越額	
		件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額		件 数	金 額	件 数	金 額
過 年 度 分	R5	10	154,360	0	0	10	154,360	0	0	100.00%	0	0	0	0
	小計	10	154,360	0	0	10	154,360	0	0	100.00%	0	0	0	0
R6		722	5,077,540	0	0	713	4,997,530	9	80,010	98.42%	0	0	9	80,010
合 計		732	5,231,900	0	0	723	5,151,890	9	80,010	98.47%	0	0	9	80,010

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	公共下水道水洗化率【累】 （公共下水道接続人口/公共下水道整備地区人口）	85.7%	%	目標	-	-	-	-	88.0%	102%
				実績	86.7	87.7	88.3	89.4	-	
成果	生活排水処理率【累】 （公共下水道・農集排・浄化槽整備人口/行政人口）	85.7%	%	目標	-	-	-	-	88.0%	101%
				実績	85.7	86.8	88.3	89.3	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
有効性	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☒ 目標を達成している	
		☐ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
効率性	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☐ 適切である	
		☒ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）		
資金不足比率はマイナスとなり、財源等を確保しながら安定的な運営が行えていると考えますが、今後、施設、管渠等の更新等を考えていく必要があるため、計画的な更新計画や国県補助事業の活用による財源確保を行いながら安定的な事業運営を目指していきます。		評価の結果 A 業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

【このページは空白です】

事業番号		6 - 2 - 2		担当課	出納室	担当班	出納班			
事業名		資金運用による歳入の確保 （預金利子）								
総合計画 上の位置 づけ	基本目標	「行政・財政」が持続可能なまち				予算 科目	会計	一般会計		
	戦略目標	健全な財政運営を行う					款	18	繰入金	
法令根拠条例等		佐々町資金管理方針					項	1	基金繰入金	
個別計画							目			

1 事業内容

【行動指針】

・佐々町資金管理方針に基づき、常に金融機関の経営状況等を把握しながら安全性を最優先としつつ流動性を確保し、効率的な資金管理を行うことにより、公金の保管及び運用に努めます。

【事業概要】

○定期預金実績

・佐々町資金管理方針に基づき、公金の保管及び運用に努めました。

	年度末定期金額	割合	年 利 率	利 子 額
			R6. 4月 R6. 9月	
十八親和銀行	2,268,704,980円	57.02%	(0.025%→0.125%)	2,386,594円
ながさき西海農業協同組合	1,510,000,000円	37.95%	(0.035%→0.145%)	1,139,739円
九州労働金庫	50,000,000円	1.26%	(0.022%→0.135%)	39,198円
西海みずき信用組合	150,000,000円	3.77%	(0.073%→0.128%)	130,656円
合 計	3,978,704,980円	100.00%		3,696,187円

※参考	令和5年度(R6.3月)年 利 率	利 子 額
十八親和銀行	(0.002%)	49,089円
ながさき西海農業協同組合	(0.012%)	153,753円
九州労働金庫	(0.022%)	21,397円
西海みずき信用組合	(0.070%)	50,216円
合 計		274,455円

○こうふりネット申請実績(十八親和銀行の口座振替WEB受付)

令和6年度受付実績:225件(令和5年10月受付開始 実績:76件)

2 コスト (単位:円)

区分	R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費				
財源				
国庫支出金				
県支出金				
その他特定財源				
地方債				
一般財源				

令和6年度決算 普通徴収に係る収納方法別収納状況

※上下水道料については3/31現在

全 体 収 納 (普通徴収)				うち口座振替				うちコンビニ収納						うち役場・金融機関窓口収納				
税目等	件数 A	還付 B	金額 C	件数 D	全体率	金額 E	全体率	件数 F	F/A	納付書率	金額 G	G/C	納付書率	件数 H	全体率	金額 I	全体率	
					D/A		E/C		F/(F+H)	G/(G+I)		H/A	I/C					
住民税	4,946	27	176,141,424	822	16.6%	38,873,684	22.1%	1,179	23.8%	28.6%	27,086,400	15.4%	19.7%	2,945	59.5%	110,181,340	62.6%	
固定資産税	19,197	34	702,841,877	5,982	31.2%	203,123,080	28.9%	3,522	18.3%	26.7%	56,042,400	7.9%	11.2%	9,693	50.5%	443,676,397	63.1%	
軽自動車税	6,887	8	56,792,100	522	7.6%	4,129,600	7.3%	2,395	34.8%	37.6%	20,437,600	36.0%	38.8%	3,970	57.6%	32,224,900	56.7%	
保育料	1,440	7	34,661,780	966	67.1%	23,298,460	67.2%	347	24.1%	73.2%	8,911,740	25.7%	78.4%	127	8.8%	2,451,580	7.1%	
住宅使用料	5,881	11	123,541,200	4,192	71.3%	91,209,000	73.8%	337	5.7%	20.0%	7,613,500	6.3%	23.5%	1,352	23.0%	24,718,700	20.0%	
国民健康保険税	12,440	340	189,586,354	5,408	43.5%	81,799,000	43.1%	1,858	14.9%	26.4%	28,973,800	15.3%	26.9%	5,174	41.6%	78,813,554	41.6%	
介護保険料	2,981	20	22,048,600	983	33.0%	7,779,300	35.3%	559	18.8%	28.0%	4,483,200	20.3%	31.4%	1,439	48.3%	9,786,100	44.4%	
後期高齢者医療保険料	3,338	40	60,809,700	2,037	61.0%	43,893,900	72.2%	234	7.0%	18.0%	3,599,000	5.9%	21.3%	1,067	32.0%	13,316,800	21.9%	
上下水道料	上水道	76,878	70	358,197,680	62,911	81.8%	187,457,430	52.3%	6,031	7.8%	43.2%	13,674,250	3.8%	8.0%	7,936	10.3%	157,066,000	43.8%
	下水道	60,192	47	296,126,140	50,083	83.2%	147,568,720	49.8%	4,608	7.7%	45.6%	11,200,270	3.8%	7.5%	5,501	9.1%	137,357,150	46.4%
	小計	76,878	117	654,323,820	62,911	81.8%	335,026,150	51.2%	6,031	7.8%	43.2%	24,874,520	3.8%	7.8%	7,936	10.3%	294,423,150	45.0%
計	133,988	604	2,020,746,855	83,823	62.6%	829,132,174	41.0%	16,462	12.3%	32.8%	182,022,160	9.0%	15.3%	33,703	25.2%	1,009,592,521	50.0%	

※件数は、納付書の件数

※住宅使用料の件数は、公営住宅使用料の件数

※水道使用料の件数は、上下水道使用料の件数

※住民税の金額は、県民税を含む金額

1 事業内容

口座振替件数及び割合の推移

科目	R 4			R 5			R 6		
	全体 件数	口座振替 収納件数	口座振替 収納割合	全体 件数	口座振替 収納件数	口座振替 収納割合	全体 件数	口座振替 収納件数	口座振替 収納割合
住民税	6,023	1,001	16.6%	5,461	995	18.2%	4,946	822	16.2%
固定資産税	19,053	5,905	31.0%	19,154	5,927	30.9%	19,196	5,982	31.2%
軽自動車税	6,834	523	7.7%	6,833	530	7.8%	6,887	522	7.6%
保育料	1,593	1,146	71.9%	1,534	1,088	70.9%	1,440	966	67.1%
住宅使用料	6,018	4,314	71.7%	5,984	4,311	72.0%	5,881	4,192	71.3%
国民健康保険税	13,108	5,640	43.0%	12,651	5,554	43.9%	12,440	5,408	43.5%
介護保険料	3,121	1,066	34.1%	3,140	1,068	34.0%	2,981	983	33.0%
後期高齢者医療保険料	2,920	1,886	64.6%	3,049	1,824	59.8%	3,338	2,037	61.0%
上下水道料	76,448	62,453	81.7%	77,001	62,686	81.4%	76,878	62,911	81.8%
計	135,118	83,934	62.1%	134,807	83,983	62.3%	133,987	83,823	62.6%

年度比較		R 6－R 4			R 6－R 5		
科目		口座振替 件数増減	口座振替 件数 増減率	口座振替 割合増減	口座振替 件数増減	口座振替 件数 増減率	口座振替 割合増減
住民税		-179	-17.9%	-0.4	-173	-17.4%	-2.0
固定資産税		77	1.3%	0.2	55	0.9%	0.3
軽自動車税		-1	-0.2%	-0.1	-8	-1.5%	-0.2
保育料		-180	-15.7%	-4.8	-122	-11.2%	-3.8
住宅使用料		-122	-2.8%	-0.4	-119	-2.8%	-0.7
国民健康保険税		-232	-4.1%	0.5	-146	-2.6%	-0.4
介護保険料		-83	-7.8%	-1.1	-85	-8.0%	-1.0
後期高齢者医療保険料		151	8.0%	-3.6	213	11.7%	1.2
上下水道料		458	0.7%	0.1	225	0.4%	0.4
計		-111	-0.1%	0.5	-160	-0.2%	0.3

コンビニ収納件数及び割合の推移

科目	R 4			R 5			R 6		
	全体 件数	コンビニ 収納件数	コンビニ 収納割合	全体 件数	コンビニ 収納件数	コンビニ 収納割合	全体 件数	コンビニ 収納件数	コンビニ 収納割合
住民税	6,023	1,594	26.5%	5,461	1,525	27.9%	4,946	1,179	23.8%
固定資産税	19,053	3,496	18.3%	19,154	3,428	17.9%	19,196	3,522	18.3%
軽自動車税	6,834	2,332	34.1%	6,833	2,249	32.9%	6,887	2,395	34.8%
保育料	1,593	235	14.8%	1,534	330	21.5%	1,440	347	24.1%
住宅使用料	6,018	270	4.5%	5,984	293	4.9%	5,881	337	5.7%
国民健康保険税	13,108	2,008	15.3%	12,651	1,997	15.8%	12,440	1,858	14.9%
介護保険料	3,121	517	16.6%	3,140	588	18.7%	2,981	559	18.8%
後期高齢者医療保険料	2,920	136	4.6%	3,049	209	6.9%	3,338	234	7.0%
上下水道料	76,448	5,238	6.8%	77,001	5,859	7.6%	76,878	6,031	7.8%
計	135,118	15,826	11.7%	134,807	16,478	12.2%	133,987	16,462	12.3%

年度比較		R 6－R 4			R 6－R 5		
科目		コンビニ 件数増減	コンビニ 件数 増減率	コンビニ 割合増減	コンビニ 件数増減	コンビニ 件数 増減率	コンビニ 割合増減
住民税		-415	-26.0%	-2.7	-346	-22.7%	-4.1
固定資産税		26	0.7%	0.0	94	2.7%	0.4
軽自動車税		63	2.7%	0.7	146	6.5%	1.9
保育料		112	47.7%	9.3	17	5.2%	2.6
住宅使用料		67	24.8%	1.2	44	15.0%	0.8
国民健康保険税		-150	-7.5%	-0.4	-139	-7.0%	-0.9
介護保険料		42	8.1%	2.2	-29	-4.9%	0.1
後期高齢者医療保険料		98	72.1%	2.4	25	12.0%	0.1
上下水道料		793	15.1%	1.0	172	2.9%	0.2
計		636	4.0%	0.6	-16	-0.1%	0.1

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
活動	経常収支比率【単】	80.7% (H30:90.7%)	%	目標	95未満	95未満	95未満	95未満	95未満	104%
				実績	80.3	90.2	91.0	91.5	-	
活動	実質公債費比率【単】	8.9%	%	目標	15未満	15未満	15未満	15未満	15未満	179%
				実績	8.7	8.6	8.8	8.4	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・ 事業根拠の再確認 (住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか)	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・ 意図の適切性 (住民のニーズに対して、意図が適切であるか)	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
・ 自治体関与の必要性 (自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	☒ 妥当である		
	☐ 検討の余地がある		
	☐ 検討の余地が多い		
有効性	・ 意図の達成度 (評価指標や意図をどの程度達成しているか)	☒ 目標を達成している	3
		☐ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
	・ 対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
・ 手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	☒ 適切である		
	☐ 改善の余地がややある		
	☐ 改善の余地が多い		
効率性	・ 業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	☒ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
・ 財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	☒ 適切である		
	☐ 改善の余地がややある		
	☐ 改善の余地が多い		

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）		
今後も引き続き佐々町資金管理方針に基づき適切に運用を行いたいと考えます。 また、口座振替の推進については、今後も引き続き広報紙での周知や窓口納付来庁者に対する案内を行っていきます。		評価の結果 A 業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		6 2 2		担当課	出納室 税財政課	担当班	一 財政班		
事業名		資金運用による歳入の確保 (債券運用)							
総合計画 上の位置 づけ	基本目標	「行政・財政」が持続可能なまち				予算 科目	会計	一般会計	
	戦略目標	健全な財政運営を行う					款	16	財産収入
	法令根拠条例等	佐々町資金管理方針					項	1	財産運用収入
	個別計画	-					目	2	利子及び配当金

1 事業内容

【行動指針】

・佐々町資金管理方針に基づき、常に金融機関の経営状況等を把握しながら安全性を最優先としつつ流動性を確保し、効率的な資金管理を行うことにより、公金の保管及び運用に努めます。

【事業概要】

○基金の運用

佐々町の基金において、安全性及び流動性を確保したうえで、効率性を追求し運用収益の最大化を図るため、基金の一部により債券運用を行っています。

3証券会社において5銘柄の取り引きを行い、運用益として昨年度と同額の年間6,550,000円の利子収入を得ました。

◇SMB C日興証券株式会社長崎支店	額面	年利率	利子額
・神奈川県第28回20年公募公債	200,000,000円	0.941%	1,882,000円
・第21回名古屋20年公募公債	100,000,000円	0.568%	568,000円
・第162回利付国債(20年)	100,000,000円	0.600%	600,000円
・第165回利付国債(20年)	100,000,000円	0.500%	500,000円
◇野村證券株式会社長崎支店	額面	年利率	利子額
・第164回利付国債(20年)	100,000,000円	0.500%	500,000円
・第164回利付国債(20年)	200,000,000円	0.500%	1,000,000円
・第165回利付国債(20年)	100,000,000円	0.500%	500,000円
◇大和証券株式会社長崎支店	額面	年利率	利子額
・第165回利付国債(20年)	200,000,000円	0.500%	1,000,000円
計	1,100,000,000円		6,550,000円

2 コスト (単位: 円)

区分	R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費				
財源				
国庫支出金				
県支出金				
その他特定財源				
地方債				
一般財源				

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
活動	経常収支比率【単】	80.7% (H30:90.7%)	%	目標	95未満	95未満	95未満	95未満	95未満	104%
				実績	80.3	90.2	91.0	91.5	-	
活動	実質公債費比率【単】	8.9%	%	目標	15未満	15未満	15未満	15未満	15未満	179%
				実績	8.7	8.6	8.8	8.4	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 (住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか)	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 (住民のニーズに対して、意図が適切であるか)	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 (評価指標や意図をどの程度達成しているか)	☒ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	☒ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）		評価の結果	
物価高騰や金利の上昇など資金運用を行う上で難しい状況ではありますが、今後も引き続き佐々町資金管理方針に基づき適切に運用を行いたいと考えます。		A	業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		2		-		1		-		4		担当課	教育委員会	担当班	総務班	
事業名		特別支援教育の充実														
総合計画上の位置づけ	基本目標		「教育・文化」で輝くまち										予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標		「生きる力」を育む学校教育を充実する											款	10	教育費
	法令根拠条例等		佐々町教育支援委員会規則											項	1・2・3	教育総務費・小学校費・中学校費
	個別計画		第三期 佐々町教育振興基本計画											目	2・1・3	事務局費・学校管理費

1 事業内容

【行動指針】

- ・特別な支援を要する児童生徒の教育的ニーズを的確に把握し、その児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援できるよう、特別支援教育を充実します。

【事業概要】

○特別支援教育支援員の配置（決算額 15,993,146円）

- ・特別支援学級に在籍する児童生徒の学校における日常生活上の介助や学習支援、児童生徒の安全確保などのサポートを行う職員として、佐々小学校2名、口石小学校3名、佐々中学校2名を配置しました。
- ・通常学級において年々、発達障害（学習障害・注意欠陥多動性障害・自閉症スペクトラム症等）を持つ児童生徒が増えており、学校内における日常生活上の介助や見守り、学習支援、安全確保など、校内生活上の支援を行いました。
- ・医療的ケアが必要な児童に対応するため、令和5年度から看護師を1名配置しています。

○教育支援委員会の開催（決算額 32,400円）

- ・就学児及び町内に在籍する特別の配慮を要する児童生徒に対し、それぞれの能力に応じたきめ細かな教育が受けられるよう、学校医、民生児童委員、住民福祉課職員、多世代包括支援センター保健師、学校関係者などで構成する教育支援委員会で意見聴取を行い、普通学校または特別支援学校などの就学先の決定や、特別支援学級への措置変更等について協議を行いました。

○特別支援教育研修会（決算額 なし）

- ・佐世保特別支援学校と連携して、町内の保育園等、小中高等学校職員等を対象として研修会を年2回実施しました。

○就学相談の実施（決算額 なし）

- ・小学校入学を次年度に控えている未就学児に関して、障がいを持つ子どもや、発達が気になる子どものいる保護者に対して、特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室等の特別支援教育について説明を行い、保護者が就学先を選択するうえでの助言や情報を発信する面談を実施しました。
- ・就学児に関しては、多世代包括支援センターが所管している療育事業等で特に気になる児童の把握ができることから、保護者に対して就学相談実施を紹介することができ、行政機関内での連携を図りました。

※特別支援学級在籍児童生徒数（令和6年5月1日現在）

障がい	佐々小学校	口石小学校	佐々中学校
情緒障害	12名	14名	10名
知的障害	4名	7名	6名
肢体不自由	—	1名	—
病弱	1名	1名	—
計	17名	23名	16名

【歳入財源内訳】

国庫支出金 : 決算書P28 教育支援体制整備事業費補助金 845千円

2 コスト (単位: 円)

区分	R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費	9,502,496	10,234,668	16,025,546	18,263,000
財源	国庫支出金	727,000	845,000	1,346,000
	県支出金			
	その他特定財源			
	地方債			
	一般財源	9,502,496	9,507,668	15,180,546
			15,180,546	16,917,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	学力テスト全国平均比較【総合戦略】【単】	全国平均以下	-	目標	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
				実績	全国平均以上	全国平均以下	全国平均以下	全国平均以下	-	
成果	佐々町に愛着を持つ児童生徒の割合【総合戦略】【単】	-	%	目標	100	100	100	100	100	90%
				実績	94	95	94	90	-	
成果	体力テスト全国平均比較【単】	全国平均以下	-	目標	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
				実績	全国平均以下	全国平均以下	全国平均同等	全国平均同等	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点			項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）		☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）		☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか）		☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）		☒ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）		☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）		☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）		☒ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）		☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）		☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）

個々の特性に応じた支援が必要な児童生徒は年々増加しており、町内3校ともに特別支援教育の推進に関しては大きな課題となっています。課題解決の手法として各学校への支援員の配置について、特別支援教育の充実に寄与していると考えています。

評価の結果	A	業務の内容は適切である
-------	---	-------------

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		2 - 1 - 1		担当課	教育委員会	担当班	総務班	
事業名		学習内容や生徒指導の充実						
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち			予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標	「生きる力」を育む学校教育を充実する				款	10	教育費
	法令根拠条例等	-				項	1・2・2・3	教育総務費・小学校費・中学校費
	個別計画	第三期 佐々町教育振興基本計画				目	2・1・3・1	事務局費他

1 事業内容

【行動指針】 ・学力、体力の向上に必要なICT機器を活用した個別指導の方法、授業改善についてICT支援員を活用して行います。 ・教師の指導力の向上に資するため、研修機会の充実を図ります。 【事業概要】 ○ICT支援員の配置（決算額 3,981,120円） ・委託期間中、各校年間48回（原則月4回）訪問を実施し、授業支援、研修支援、障害対応支援を行いました。 ・授業支援として、授業開始前のICT機器などの設定、動作確認及び設置等の授業準備支援、授業で使用するワークシート、教材等の作成支援、授業中のICT機器等の操作支援等を行いました。授業で使うICT教材教具の効果的な活用の仕方を教職員へ提案することで効果的な学習につながっています。 ・研修支援として、ICT機器の活用促進に向けたハード・ソフトウェアの研修会の企画、準備、実施支援等を行いました。 ・ICT機器のシステム障害が発生した際に、復旧対応支援等を行いました。 ※ICT支援員…学校における教員のICTの活用（授業、校務、教員研修等）をサポートすることにより、ICTを活用した授業等を教員がスムーズに行うための支援を行う人材。 ○持ち帰り学習用インターネット通信料（決算額 1,607,739円） ・タブレット端末の持ち帰り学習に関して、インターネット環境が整っていない児童生徒世帯に対してルーターを貸与し、通信料を負担しました。 〔年度末貸与実績：佐々小学校：24台、口石小学校：20台、佐々中学校：9台〕 ○フィルタリングソフト使用料（決算額 1,267,200円） ・タブレット端末の持ち帰り学習に関して、児童生徒が安全にインターネットを活用できるようフィルタリングソフトを導入しました。 ○佐々町三校共同研究の取組（決算額 なし） ・児童生徒の学力向上と基本的な生活習慣の定着を図ることを目的とした佐々町三校共同研究会において、「佐々っ子ゆめプラン（リーフレット）」を活用し、学習・生活・健康の3分野に分かれたそれぞれの取組を推進しました。 - また、学力向上部会、生活習慣向上部会の各部会において、小中学校の相互連携、児童生徒指導力向上の視点に立った公開授業及び研修会を年間1～2回実施しました。 ○各種研修会の充実（決算額 なし） ・教務主任研修会…教育課程、学力向上、指導力改善を目的として、年2回実施しました。 ・研究主任研修会…校内研修の進め方、授業改善、指導力向上、三校共同研究の充実を目的として、年2回実施しました。 ・生活指導主任会…生徒指導の充実を目的として、年2回実施しました。 ・小中教科研修会…小中の授業の連携を目的として、年1回実施しました。 ・養護教諭研修会…学校保健（児童生徒及び教職員の健康保持等）の充実を目的として、年6回実施しました。 ・特別支援研修会…町内の保育園等、小中高等学校の特別支援教育の充実を目的として、年2回実施しました。

2 コスト （単位：円）

区分	R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費	6,848,206	6,855,110	6,856,059	7,516,000
財源	国庫支出金			
	県支出金			
	その他特定財源			
	地方債			
	一般財源	6,848,206	6,855,110	6,856,059
				7,516,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	学力テスト全国平均比較【総合戦略】【単】	全国平均以下	-	目標	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
				実績	全国平均以上	全国平均以下	全国平均以下	全国平均以下	-	
成果	佐々町に愛着を持つ児童生徒の割合【総合戦略】【単】	-	%	目標	100	100	100	100	100	90%
				実績	94	95	94	90	-	
成果	体力テスト全国平均比較【単】	全国平均以下	-	目標	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
				実績	全国平均以下	全国平均以下	全国平均同等	全国平均同等	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・ 事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・ 意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
・ 自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である		
	☐ 検討の余地がある		
	☐ 検討の余地が多い		
有効性	・ 意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している	3
		☒ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
	・ 対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
・ 手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である		
	☐ 改善の余地がややある		
	☐ 改善の余地が多い		
効率性	・ 業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
・ 財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である		
	☐ 改善の余地がややある		
	☐ 改善の余地が多い		

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）

ICT機器を活用した授業支援を行うことにより、児童生徒の「主体的・対話的」で「深い学び」に繋がる授業改善を図ることができました。また、佐々町三校共同研究会や町教委が主催する各種研修への教職員の参加によって学習や生徒指導等の充実に繋がりました。今後も引き続き関係機関と連携して学習環境の整備や児童生徒への生活指導の充実を図ってまいります。

評価の結果

A

業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		2 - 1 - 2		担当課	教育委員会	担当班	総務班		
事業名		ふるさと教育の充実							
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち				予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標	「生きる力」を育む学校教育を充実する					款	10	教育費
	法令根拠条例等	-					項	1	教育総務費
	個別計画	第三期 佐々町教育振興基本計画					目	2	事務局費

1 事業内容

【行動指針】

- ・町の産業、地勢、気候などをテーマとした社会科副読本「佐々町博士」を継続的に活用します。
- ・地域を学習教材とした体験的学習を進め、授業改善につなぐとともに、ふるさと「佐々町」に愛着を持つ子どもたちを育てます。

【事業概要】

- 社会科副読本「佐々町博士」の活用によりふるさとに愛着を持つ子どもたちを育む（決算額 261,360円）
- ・小学3、4年生を対象として、社会科の授業で本町が発行した社会科副読本「佐々町博士」を活用しました。
- ・3年生では①私たちの大好きなまち ②働く人とわたしたちの暮らし ③変わるわたしたちの暮らし
- 4年生では④安全なくらしとまちづくり ⑤健康なくらしとまちづくり ⑥昔から今へと続くまちづくり
- ⑦わたしたちの県のまちづくり について学びふるさと教育の充実を図りました。

- 地域を学習教材とした体験学習（決算額 なし）

- ・地域の人材を活用して田植え体験、歴史探訪、佐々川を学習教材とした生物観察・水質調査等を実施しました。

（社会科副読本「佐々町博士」）



（生物観察会の様子）



2 コスト （単位：円）

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		242,000	253,000	261,360	308,000
財源	国庫支出金				
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	242,000	253,000	261,360	308,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	学力テスト全国平均比較【総合戦略】【単】	全国平均以下	-	目標	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
				実績	全国平均以上	全国平均以下	全国平均以下	全国平均以下	-	
成果	佐々町に愛着を持つ児童生徒の割合【総合戦略】【単】	-	%	目標	100	100	100	100	100	90%
				実績	94	95	94	90	-	
成果	体力テスト全国平均比較【単】	全国平均以下	-	目標	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
				実績	全国平均以下	全国平均以下	全国平均同等	全国平均同等	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
有効性	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している	
		☒ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
効率性	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）

社会科副読本「佐々町博士」は、地域学習用教材として非常に使いやすいと教職員から好評を得ています。今後も引き続き、佐々町に対する郷土愛を育む教育環境の充実を図ってまいります。

評価の結果

A

業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		2 - 1 - ◆1		担当課	教育委員会	担当班	総務班			
事業名		さざっ子学力アップ事業								
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち				予算科目	会計	一般会計		
	戦略目標	「生きる力」を育む学校教育を充実する					款	10	教育費	
法令根拠条例等		-					項	1・2・3	教育総務費・小学校費・中学校費	
個別計画		第三期 佐々町教育振興基本計画					目	2・1・3・4	事務局費他	

1 事業内容

【行動指針】

・21世紀を担う子どもたちの時代のニーズに応じた学力の定着・向上を図ります。また、ALT（外国語指導助手）を活用し、グローバル人材の育成を目指した英語教育を推進します。

【事業概要】

○外国語指導助手（ALT）の配置（決算額 9,900,000円）

・2名のALTを配置（委託）し、小・中学校において教職員と連携して授業に取り組みました。

・小学校の外国語教科化により、児童が英語に親しむための一助になりました。また、小中学校のALTも含めた小中の連携を意識した研修会を開催したことによって小中のスムーズな教科指導連携が構築しつつあります。

○学力向上対策事業（決算額 2,182,430円）

・小・中学校全児童生徒に対し、標準学力調査を実施しました。

・小1から中2までの児童生徒個人個人の累年比較を行うなど、調査結果を各校で分析し、課題を洗い出しながら教職員が授業の工夫をする取組も出てきています。また、意識調査も同時に行っており、その結果を活用して、学習意欲向上のきっかけとしました。今後も継続することによって、全国学力調査での目標達成につなげていきたいと考えています。

学校名	実施日
佐々小学校	令和7年1月16日・17日
口石小学校	令和7年1月16日・17日
佐々中学校	令和7年1月9日・10日（1・2年生）

○学力向上支援員の配置（決算額 7,275,472円）

・各校1名ずつ配置し、算数、数学、国語を中心に授業の中で担任とのTT指導等に活用したことで、個別指導等のきめ細かな指導の一助となりました。また、練習問題等に日常的な丸付け及び評価を行うなどの学習支援も行いました。

・教材・教具の作成支援や、学習内容の習熟を図るための資料作成等の校務支援を行いました。

○サポートティーチャーによる学力向上支援（決算額 292,600円）

・退職校長会や地域住民等を活用して、放課後や夏季休業中を活用して学習支援を行いました。

また、長崎県立大学生のサポートティーチャーについても、7名の大学生に参加してもらい実施することができました。

・学習の到達度が遅い児童に対して個別指導を行いました。

・算数科や国語科において、TTの指導によりで学習支援を行いました。

※TT…チーム・ティーチングの略称。教員と学力向上支援員、教員と教員など複数で学習支援を行うこと。

【歳入財源内訳】

県補助金：決算書P36 学力向上のための非常勤講師等配置支援事業補助金 1,455千円

2 コスト（単位：円）

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		17,099,584	16,765,830	19,650,502	21,800,000
財源	国庫支出金				
	県支出金	185,000	173,000	1,455,000	1,234,000
	その他特定財源	1,000,000	1,000,000		
	地方債				
	一般財源	15,914,584	15,592,830	18,195,502	20,566,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	学力テスト全国平均比較【総合戦略】【単】	全国平均以下	-	目標	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
				実績	全国平均以上	全国平均以下	全国平均以下	全国平均以下	-	
成果	佐々町に愛着を持つ児童生徒の割合【総合戦略】【単】	-	%	目標	100	100	100	100	100	90%
				実績	94	95	94	90	-	
成果	体力テスト全国平均比較【単】	全国平均以下	-	目標	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
				実績	全国平均以下	全国平均以下	全国平均同等	全国平均同等	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
有効性	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している	
		☒ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
効率性	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）

令和6年度は、小学校・中学校とも全教科において全国平均を下回る結果になりました。調査結果から見えた課題について検証を行い、主体的、対話的な深い学びを実現するための授業の工夫や改善を図り、タブレット端末等のICT機器やサポートティーチャー等の活用を通して学力向上を図ってまいります。

評価の結果	A	業務の内容は適切である
-------	---	-------------

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

委員会意見
特記事項なし
委員会評価
現状維持 ・ 見直し ・ 廃止

事業番号		2 - 1 - 3		担当課	教育委員会	担当班	総務班			
事業名		児童・生徒の心のケア体制の整備								
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち				予算科目	会計	一般会計		
	戦略目標	「生きる力」を育む学校教育を充実する					款	10	教育費	
法令根拠条例等		-					項	1・2・2・3	教育総務費・小学校費・中学校費	
個別計画		第三期 佐々町教育振興基本計画					目	2・1・3・1	事務局費他	

1 事業内容

【行動指針】

・スクールカウンセラーや心の教室相談員を中心に、いじめや不登校をはじめとした心の支援を必要とする児童生徒に対する相談・サポート体制を整備し、学校と関係機関等が連携を密にして、予防や早期解消を図ります。

【事業概要】

○児童生徒理解支援事業（決算額 1,347,840円）

・小・中学校全児童生徒に対し、ハイパーQ Uテスト（心理テスト）を実施しました。

・本テストを実施することにより、学級満足度や学校生活意欲、学級集団の状況を推し量ることができ、教職員が学級、学年経営への対応を考える一助となりました。また、不登校傾向の児童生徒の早期発見においても効果をあげることができました。

学校名	実 績
佐々小学校	令和6年5月27日～31日 380人・令和6年11月18日～22日 380人
口石小学校	令和6年6月17日～21日 560人・令和6年12月2日～6日 566人
佐々中学校	令和6年5月17日 460人・令和6年10月30日 462人

○心の教室相談員・スクールカウンセラー（SC）・スクールソーシャルワーカー（SSW）の配置（決算額 2,897,641円）

・心の教室相談員は教室内外での児童生徒の悩み相談・話し相手等、ストレスを和らげることができる第三者的存在となり得る職員として、町内小中学校に4名配置しました。

・県派遣のスクールカウンセラーとの連携を図り、不登校傾向や悩み事を抱えている児童生徒、学級内での人間関係がうまく築けない児童生徒のカウンセリングを行い、学校に不適應気味の児童生徒に対する相談相手となっています。

・家庭的支援が必要な児童生徒に関しては、県派遣のスクールソーシャルワーカーが保護者との面談等を通じて、対象保護者の支援として関係機関との連携を行いました。

（町内小中学校支援対象児童生徒数：佐々小25名 口石小22名 佐々中47名 計94名）

○サテライトあすなる教室運営事業（決算額 547,423円）

「西九州させば広域都市圏」連携事業として、サテライトあすなる佐々教室（適応指導教室）を佐々町総合福祉センター内に開設し、町内小中学校に在籍する不登校児童生徒を対象に、学校に足が向かない児童生徒の居場所や学びの場を提供しました。

【歳入財源内訳】

県支出金 ： 決算書P36 学校内外における児童生徒の学び場創出事業補助金 1,146千円

2 コスト（単位：円）

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		2,903,965	3,012,575	4,793,904	4,560,000
財源	国庫支出金				
	県支出金			1,146,000	395,000
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	2,903,965	3,012,575	3,647,904	4,165,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	学力テスト全国平均比較 【総合戦略】【単】	全国平均以下	-	目標	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
				実績	全国平均以上	全国平均以下	全国平均以下	全国平均以下	-	
成果	佐々町に愛着を持つ児童生徒の割合【総合戦略】【単】	-	%	目標	100	100	100	100	100	90%
				実績	94	95	94	90	-	
成果	体力テスト全国平均比較【単】	全国平均以下	-	目標	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
				実績	全国平均以下	全国平均以下	全国平均同等	全国平均同等	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・ 事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・ 意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
有効性	・ 自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・ 意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☒ 目標を達成している	
		☐ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
効率性	・ 対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☐ 適切である	
		☒ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）		評価の結果	
児童生徒の心のケア体制の整備は進めていますが、近年、不登校児童生徒数が増加しています。学校以外での家庭環境の課題もあるため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、県関係機関との連携を密にし、校内支援体制の充実を図ります。		A	業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		2 - 1 - 6		担当課	教育委員会	担当班	総務班		
事業名		保護者の経済的負担軽減							
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち				予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標	「生きる力」を育む学校教育を充実する					款	10	教育費
	法令根拠条例等	佐々町要保護及び準要保護児童生徒就学援助に関する要綱 ほか					項	1・2・3	教育総務費・小学校費・中学校費
	個別計画	第三期 佐々町教育振興基本計画					目	2・4・2	事務局費・教育振興費

1 事業内容

【行動指針】

・ 要保護・準要保護世帯への就学援助費、特別支援教育就学奨励費、学校給食費負担軽減事業補助金などを支給し、保護者の経済的負担軽減に引き続き取り組みます。

【事業概要】

○ 要保護及び準要保護児童生徒就学援助費（決算額 21,185,068円）

・ 経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、要保護及び準要保護児童生徒就学援助費の支給を行いました。

・ 補助対象経費 学用品費、新入学児童生徒学用品費、通学用品費、通学費、修学旅行費、クラブ活動費、PTA会費、学校給食費、医療費、卒業アルバム代等

・ 対象者数および認定者数と援助の金額

学校名	要保護者		準要保護者	
	対象者数	金額	認定者数	金額
佐々小学校	0名（0名）	0円	71名	4,847,622円
口石小学校	6名（0名）	0円	86名	5,790,444円
佐々中学校	3名（3名）	165,000円	82名	10,382,002円

※要保護者の対象者数の「（ ）内」は、実際に支援を受けた人数（修学旅行費分のみ支給）

○ 特別支援教育就学奨励費（決算額 675,466円）

・ 特別支援学級に通う児童生徒の保護者に対し、特別支援教育就学奨励費として給食費や学用品費等の一部を支給することで保護者の負担を軽減しました。

・ 補助対象経費 学用品費、新入学児童生徒学用品費、通学用品費、学校給食費、修学旅行費

・ 対象者数と援助の金額

学校名	支給対象者数	支給金額
佐々小学校	5名	145,445円
口石小学校	12名	343,165円
佐々中学校	8名	186,856円

○ 学校給食費負担軽減事業補助金（決算額 12,605,940円）

・ 小学生を持つ家庭の子育て支援として、町内の小学校に在籍する児童生徒の給食費について、学校給食費負担軽減事業として第1子20%、第2子40%に加え、第3子以降無償化の補助を行いました。

○ 羽ばたけ若者人材育成奨学金事業補助金（決算額 2,100,000円）

・ 佐々町から将来を担う有用な人材の育成・支援を目的として、申請者の中から学業・芸術・スポーツ等の成績や経済状況などを勘案し、1名につき30万円の奨学金を7名へ給付しました。

○ 学校給食物価高騰対策事業費補助金（決算額 12,558,000円）

・ 保護者負担を増やすことなく栄養バランスや量を保った給食を提供するため、食材の物価高騰分を補助しました。

○ 学校給食費負担軽減事業補助金（小学生無償化分）（決算額 5,701,428円）

・ 小学生を持つ家庭の子育て支援として、町内小学校に在籍する全学年生徒の給食費について、学校給食費負担軽減事業として令和7年1月から3月までの給食費を無償化しました。

○ 中学校給食費無償化事業補助金（決算額 20,696,430円）

・ 中学生を持つ家庭の子育て支援として、町内中学校に在籍する生徒の給食費について、学校給食費負担軽減事業として給食費を無償化しました。

【歳入財源内訳】

国庫支出金：決算書P28 要保護生徒就学援助費補助金 82 千円

決算書P28 特別支援教育就学奨励費補助金 337千円

決算書P28 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 5,427千円

その他特定財源：決算書P44 ふるさと応援基金繰入金（学校給食物価高騰対策事業費補助金） 12,330千円

決算書P44 ふるさと応援基金繰入金（中学校給食費無償化事業補助金） 20,690千円

その他特定財源：決算書P42 羽ばたけ若者人材育成奨学寄附金 10,000千円

2 コスト (単位：円)

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		39,334,337	55,279,363	75,522,332	82,085,000
財源	国庫支出金	2,792,000	12,953,000	5,846,000	5,846,000
	県支出金				
	その他特定財源			43,020,000	
	地方債				
	一般財源	36,542,337	42,326,363	26,656,332	76,239,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	学力テスト全国平均比較【総合戦略】【単】	全国平均以下	-	目標	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
				実績	全国平均以上	全国平均以下	全国平均以下	全国平均以下	-	
成果	佐々町に愛着を持つ児童生徒の割合【総合戦略】【単】	-	%	目標	100	100	100	100	100	90%
				実績	94	95	94	90	-	
成果	体力テスト全国平均比較【単】	全国平均以下	-	目標	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
				実績	全国平均以下	全国平均以下	全国平均同等	全国平均同等	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☒ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）

今年度は中学生の学校給食の無償化、1～3月には小学生に対しても学校給食費無償化を実施し、保護者の経済的な負担軽減を図りました。
就学援助については、広報紙やホームページ等を活用して制度の周知を図り、経済的支援が必要な世帯に対し適切な援助を行ってまいります。

評価の結果

A

業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		2 - 1 - 7		担当課	教育委員会	担当班	総務班		
事業名		特色ある学校づくり							
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち				予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標	「生きる力」を育む学校教育を充実する					款	10	教育費
	法令根拠条例等	佐々町学校運営協議会規則					項	2・3	小学校費・中学校費
	個別計画	第三期 佐々町教育振興基本計画					目	1・3	学校管理費

1 事業内容

【行動指針】

- ・学校運営協議会を充実させ、学校運営に地域の声を積極的に活かし、学校と地域が一体となって、特色ある学校づくりを進めます。

【事業概要】

- 学校運営協議会の開催（決算額 107,500円）
- ・社会に開かれた教育課程を実現するために各学校で学校運営協議会を年2～3回実施し、学校経営方針、学校運営にかかわる職員組織や学校設備、教育課程等を説明し、地域や保護者の様々な意見を聴きながら学校と地域が一体となって特色ある学校づくりを推進しました。

（佐々小学校 佐々っ子フェスタ）



（口石小学校 佐々町地域婦人会を招いての家庭科支援）



（佐々中学校 あいさつ運動）



2 コスト （単位：円）

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		97,500	102,500	107,500	121,000
財源	国庫支出金				
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	97,500	102,500	107,500	121,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	学力テスト全国平均比較【総合戦略】【単】	全国平均以下	-	目標	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
				実績	全国平均以上	全国平均以下	全国平均以下	全国平均以下	-	
成果	佐々町に愛着を持つ児童生徒の割合【総合戦略】【単】	-	%	目標	100	100	100	100	100	90%
				実績	94	95	94	90	-	
成果	体力テスト全国平均比較【単】	全国平均以下	-	目標	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
				実績	全国平均以下	全国平均以下	全国平均同等	全国平均同等	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
有効性	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☒ 目標を達成している	
		☐ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
効率性	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）

学校運営協議会（コミュニティスクール）との協議を通して、学校と地域が一体となって子ども達を育む「特色ある学校づくり」を行っています。今後も継続して学校と家庭、地域が連携した魅力ある学校運営に取り組んでまいります。

評価の結果

A

業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		2 - 1 - 8		担当課	教育委員会	担当班	総務班		
事業名		保育所等、小学校、中学校の連携							
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち			予算科目	会計	一般会計		
	戦略目標	「生きる力」を育む学校教育を充実する				款	10	教育費	
法令根拠条例等		-				項	2・3	小学校費・中学校費	
個別計画		第三期 佐々町教育振興基本計画				目	1・3	学校管理費	

1 事業内容

【行動指針】	
・保育所等、小学校、中学校が連携を図り、相互交流を通して、子どもが安心して進級できる体制を整えます。	
・教職員等が連携し、小1プロブレム、中1ギャップの解消に取り組みます。	
【事業概要】	
○幼保小連携推進事業（決算額 なし）	
令和5・6年の2か年で、県の委託事業として、「幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進」について、「学びの連続性を見通した連携」に視点をあてた研究を行っています。	
・幼保小連絡協議会を2回開催し、保育要録、小学校指導要録についての研修や、講師を招いて幼保小の望ましい連携について研究協議等を行いました。	
・今年度から会議の在り方を見直し、年長園児の小学校生活がスムーズにいくように、保育所等の職員が直接小学校に出向き、情報交換を行いました。	
・保育所等の職員が小学校の学校公開日において授業参観に参加し、小学校での児童の様子を小学校の先生と共有し、今後の情報交換ができるように努めました。	
・町内の年長園児を小学校に招いて小学1年生との交流会を実施し、一日体験入学（学校施設探検、生活科交流等）を通して小1プロブレムの解消に取り組みました。	
○小学校・中学校の連携（決算額 なし）	
・入学説明会の実施により、中学校生活や授業、部活動、生徒会の様子などを佐々小と口石小の両6年生で共有することで中1ギャップの解消に取り組みました。教職員についても指導方法の連携を意識した授業交流会等を開催したり年度末に小中連絡会を実施し、子どもたちがスムーズに中学校生活に移行できるような手立てを講じました。	
○学習・生活支援員の配置（決算額 6,551,793円）	
・通常学級で落ち着いて授業を受けることが困難な児童や、発達障害（学習障害・注意欠陥多動性障害・自閉症スペクトラム症等）傾向の児童が年々増加傾向にあります。そうした児童に対する学習・生活支援を行う職員として佐々小学校1名、口石小学校2名配置しました。この職員の配置により、教職員の支援にもなり、通常学級全体の授業や校内生活を円滑にするためのサポートを行うことができています。	
※小1 プロブレム…小学校に入学したばかりの1年生が、集団行動がとれない、授業中に座ってられないなど、小学校の生活になかなかなじめない状況になること。	
※中1 ギャップ…児童が、小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活になじめずに、不登校になったりする問題。	
(学習・生活支援員による支援の様子)	
	

2 コスト (単位: 円)

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		4,675,245	5,199,702	6,551,793	7,250,000
財源	国庫支出金				
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	4,675,245	5,199,702	6,551,793	7,250,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	学力テスト全国平均比較【総合戦略】【単】	全国平均以下	-	目標	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
				実績	全国平均以上	全国平均以下	全国平均以下	全国平均以下	-	
成果	佐々町に愛着を持つ児童生徒の割合【総合戦略】【単】	-	%	目標	100	100	100	100	100	90%
				実績	94	95	94	90	-	
成果	体力テスト全国平均比較【単】	全国平均以下	-	目標	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
				実績	全国平均以下	全国平均以下	全国平均同等	全国平均同等	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
有効性	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☒ 目標を達成している	
		☐ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
効率性	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）

幼保小の連携事業を通して、保育所や幼稚園から小学校へとスムーズな接続を図ることができました。今後さらに教職員等の連携を深め、小1プロブレム、中1ギャップの解消に取り組んでいきたいと考えます。

評価の結果	A	業務の内容は適切である
-------	---	-------------

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		2 - 1 - ◆2		担当課	教育委員会	担当班	総務班			
事業名		小中学校キャリア教育推進事業								
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち				予算科目	会計	一般会計		
	戦略目標	「生きる力」を育む学校教育を充実する					款	10	教育費	
法令根拠条例等		-					項	2	小学校費	
個別計画		第三期 佐々町教育振興基本計画					目	2・4	教育振興費	

1 事業内容

【行動指針】

- ・総合的な学習の時間を活用し、地元の職場見学や職場体験を行います。また、中学生を対象とした、町内に居住する就業者等を校内へ招へいたした「生き方講座」を実施します。

【事業概要】

○職場見学・職場体験（決算額 なし）

- ・社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的として、小学校では町内の公共機関やスーパーマーケット等の見学を行いました。中学校では約40の事業所で実施しました。生徒一人ひとりが職場や地域における探求課題を設定し、事業所の方々にインタビューしたり、インターネットで調べたりしながら、課題解決に努めました。

○講話の実施（決算額 60,000円）

- ・佐々小学校ではクラブ活動での地元陶芸家を招いての授業を行いました。口石小学校では地元農家の協力を得ながら田植え活動や稲刈りなどの農業体験学習を通し、農業に対するキャリア教育を実施しました。また、佐々町地域婦人会を招いての梅干しづくり体験等も行いました。
- ・中学3年生が地域探求学習として、佐々町役場、佐々町商工会、地元企業、佐世保高等技術専門学校から、佐々町の現状や将来の展望について講演をいただき、生徒一人一人の職業観を深め、地域貢献への意識向上につなげました。

※キャリア教育…望ましい職業観・勤労観、職業に関する知識や技能を身に付けさせ、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育。

（佐々小学校 陶芸教室の様子）



（口石小学校 田植え活動の様子）



2 コスト （単位：円）

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		60,000	60,000	60,000	86,000
財源	国庫支出金				
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	60,000	60,000	60,000	86,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	学力テスト全国平均比較 【総合戦略】【単】	全国平均以下	-	目標	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
				実績	全国平均以上	全国平均以下	全国平均以下	全国平均以下	-	
成果	佐々町に愛着を持つ児童生徒の割合【総合戦略】【単】	-	%	目標	100	100	100	100	100	90%
				実績	94	95	94	90	-	
成果	体力テスト全国平均比較【単】	全国平均以下	-	目標	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
				実績	全国平均以下	全国平均以下	全国平均同等	全国平均同等	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
有効性	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している	
		☒ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
効率性	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）		評価の結果	A	業務の内容は適切である
中学校では、行動指針の「生き方講座」を「地域探求学習」として実施し、小学校では、体験学習を通して、児童に将来の職業について考える機会を与えることができました。 地元出身者による講話は、子どもたちの目標や夢に向けて励みとなっており、キャリア教育の推進が図られており、引き続き実施していきたいと考えます。				

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

委員会意見	
学力・体力テストに係る指標を検討できないか。	
委員会評価	
現状維持 ・ 見直し ・ 廃止	

事業番号		2 - 1 - 5		担当課	教育委員会	担当班	総務班		
事業名		適切な学校施設の維持・管理							
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち				予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標	「生きる力」を育む学校教育を充実する					款	10	教育費
	法令根拠条例等	-					項	2・3	小学校費・中学校費
	個別計画	第三期 佐々町教育振興基本計画					目	1他・1他	学校管理費他

1 事業内容

【行動指針】

- ・老朽化した学校施設の適切な維持・管理を図ります。
- ・老朽化した学校給食施設を給食センター化し、より安全で安心な給食の提供を行います。

【事業概要】

○学校施設の適切な維持・管理【工事】（決算額 2,315,500円）

●佐々小学校

（1）玄関手洗い場等撤去工事

老朽化していた玄関手洗い場の撤去工事を行いました。

●佐々中学校

（1）B棟教室間仕切り工事

旧パソコン室を特別支援学級と生徒会室に間仕切り、校舎教室の有効活用を図りました。

○学校施設の適切な維持・管理【備品購入等】（決算額 9,123,288円）

- ・各学校に必要な管理用備品・給食用備品・教材備品・児童生徒用図書・プラスバンド備品をそれぞれ購入しました。

○給食センター整備（決算額 なし）

- ・給食センターの候補地について、敷地の状況、周辺環境の状況、配送距離・時間等を勘案し、検討を行いました。

【歳入財源内訳】

その他特定財源：決算書P44 環境整備協力費基金繰入金 2,490千円



（佐々小学校 撤去後の玄関手洗い場）



（佐々中学校 B棟教室間仕切り）

2 コスト （単位：円）

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		165,664,959	156,169,129	123,444,503	227,022,000
財源	国庫支出金				
	県支出金				57,640,000
	その他特定財源	15,900,000	23,190,000	2,490,000	
	地方債	37,400,000	14,000,000		
	一般財源	112,364,959	118,979,129	120,954,503	169,382,000

1 事業内容

【事業概要】

○学校施設の適切な維持・管理【経常的経費】（決算額 112,005,715円）

「2-1-5適切な学校施設の維持・管理」に関連する経常的経費

(1) 佐々小学校管理費【P164～166】

節	内容等	決算額		比較 (B-A)
		R5 (A)	R6 (B)	
10 需用費	消耗品費、燃料費、印刷製本費、光熱水費 ほか	15,276,005	14,879,964	△ 396,041
11 役務費	通信運搬費、クリーニング料、各種手数料、建物災害共済保険料 ほか	2,512,228	3,748,257	1,236,029
12 委託料	電気工作物保安管理業務、機械警備業務、消防設備法定点検業務 ほか	1,401,515	1,489,312	87,797
13 使用料及び賃借料	校内情報ネットワークシステムリース料、電子黒板リース料、校務支援システム使用料 ほか	11,906,687	13,294,479	1,387,792
15 原材料費	補修用原材料	14,520	28,050	13,530
計		31,110,955	33,440,062	2,329,107

【主な増減理由】

- ・（役務費）学習用タブレットの通信環境改善を図るため、通信ネットワークの増設を行った。
- ・（使用料）校内情報ネットワークシステムの増設及び学習用ソフトウェアの新規利用を開始した。

(2) 口石小学校管理費【P170～172】

節	内容等	決算額		比較 (B-A)
		R5 (A)	R6 (B)	
10 需用費	消耗品費、燃料費、印刷製本費、光熱水費 ほか	17,805,874	17,379,899	△ 425,975
11 役務費	通信運搬費、クリーニング料、各種手数料、建物災害共済保険料 ほか	2,867,727	4,106,497	1,238,770
12 委託料	電気工作物保安管理業務、機械警備業務、消防設備法定点検業務 ほか	1,940,259	1,573,432	△ 366,827
13 使用料及び賃借料	校内情報ネットワークシステムリース料、電子黒板リース料、校務支援システム使用料 ほか	14,791,999	16,745,775	1,953,776
15 原材料費	補修用原材料	140,758	2,750	△ 138,008
計		37,546,617	39,808,353	2,261,736

【主な増減理由】

- ・（役務費）学習用タブレットの通信環境改善を図るため、通信ネットワークの増設を行った。
- ・（使用料）校内情報ネットワークシステムの増設及び学習用ソフトウェアの新規利用を開始した。

(3) 学校管理費（佐々中学校）【P174～176】

節	内容等	決算額		比較 (B-A)
		R5 (A)	R6 (B)	
10 需用費	消耗品費、燃料費、印刷製本費、光熱水費 ほか	16,917,447	17,278,415	360,968
11 役務費	通信運搬費、各種手数料、建物災害共済保険料 ほか	3,132,350	4,298,409	1,166,059
12 委託料	電気工作物保安管理業務、機械警備業務、消防設備法定点検業務 ほか	1,853,877	1,948,806	94,929
13 使用料及び賃借料	校内情報ネットワークシステムリース料、電子黒板リース料、校務支援システム使用料 ほか	13,774,185	15,206,582	1,432,397
15 原材料費	補修用原材料	50,124	25,088	△ 25,036
計		35,727,983	38,757,300	3,029,317

【主な増減理由】

- ・（需用費）燃料費の高騰による電気料金増額のため。
- ・（役務費）学習用タブレットの通信環境改善を図るため、通信ネットワークの増設を行った。
- ・（使用料）校内情報ネットワークシステムの増設及び学習用ソフトウェアの新規利用を開始した。

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	学力テスト全国平均比較【総合戦略】【単】	全国平均以下	-	目標	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
				実績	全国平均以上	全国平均以下	全国平均以下	全国平均以下	-	
成果	佐々町に愛着を持つ児童生徒の割合【総合戦略】【単】	-	%	目標	100	100	100	100	100	90%
				実績	94	95	94	90	-	
成果	体力テスト全国平均比較【単】	全国平均以下	-	目標	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
				実績	全国平均以下	全国平均以下	全国平均同等	全国平均同等	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点			項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）		☒ 妥当である	3
			☐ 検討の余地がある	
			☐ 検討の余地が多い	
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）		☒ 妥当である	
			☐ 検討の余地がある	
			☐ 検討の余地が多い	
有効性	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）		☒ 妥当である	3
			☐ 検討の余地がある	
			☐ 検討の余地が多い	
	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）		☒ 目標を達成している	
			☐ 目標をやや下回った	
			☐ 目標を大きく下回った	
効率性	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）		☒ 適切である	3
			☐ 改善の余地がややある	
			☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）		☒ 適切である	
			☐ 改善の余地がややある	
			☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）		☒ 効率的である	3
			☐ 改善の余地がややある	
			☐ 改善の余地が多い	
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）		☒ 適切である	
			☐ 改善の余地がややある	
			☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）		☒ 適切である	
			☐ 改善の余地がややある	
			☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）		
学校施設における各教室の有効活用や設備等の老朽化対策を行ったほか、校内情報ネットワークの通信環境の改善や学習用ソフトウェアの導入を行いました。今後も引き続き学校施設及びICT機器の整備など教育環境の向上に努めていきたいと考えます。		
評価の結果	A	業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

「2-1-5適切な学校施設の維持・管理」に関連する工事請負費【佐々小学校管理費】（決算書P166）

節		説明	工事名	工事内容	決算額(円)
14	工事請負費	玄関手洗い場等撤去工事	玄関手洗い場等撤去工事	手洗い場、洗眼場の解体	685,300
説明 計					685,300

「2-1-5適切な学校施設の維持・管理」に関連する備品購入費【佐々小学校管理費】（決算書P166）

節		説明	備品名称及び数量	決算額（円）
17	備品購入費	管理用備品	シュレッダー（1台）	385,000
			防犯カメラレコーダー（1台）	146,630
			休憩室用冷蔵庫（1台）	79,200
説明 計				610,830
節		説明	備品名称及び数量	決算額（円）
17	備品購入費	給食用備品	和え物用冷蔵庫（1台）	312,400
説明 計				312,400

「2-1-5適切な学校施設の維持・管理」に関連する備品購入費【佐々小学校教育振興費】（決算書P168）

節		説明	備品名称及び数量	決算額（円）
17	備品購入費	教材備品	絵画作品乾燥棚（1台）／図画工作	180,400
			電動糸鋸機（1台）／図画工作	128,700
			カラー運動棒（10本組・1セット）／特別支援教育	71,200
			W B 衝立（1台）／特別支援教育	57,200
			デジタルカメラ（16台）／校外学習用	159,984
説明 計				597,484
17	備品購入費	図書購入費	児童用図書：390冊	699,776
説明 計				699,776

「2-1-5適切な学校施設の維持・管理」に関連する工事請負費【口石小学校管理費】

節		説明	工事名	工事内容	決算額(円)
14	工事請負費	該当工事なし			
説明 計					

「2-1-5適切な学校施設の維持・管理」に関連する備品購入費【口石小学校管理費】(決算書P172)

節		説明	備品名称及び数量	決算額（円）
17	備品購入費	管理用備品	相談室用エアコン（1台）	161,700
説明 計				161,700
節		説明	備品名称及び数量	決算額（円）
17	備品購入費	給食用備品	和え物用冷蔵庫（1台）	312,400
			下処理室用エアコン（1台）	185,900
			休憩室用冷蔵庫（1台）	101,200
説明 計				599,500

「2-1-5適切な学校施設の維持・管理」に関連する備品購入費【口石小学校教育振興費】(決算書P172)

節		説明	備品名称及び数量	決算額（円）
17	備品購入費	教材備品	かるいノート黒板（1枚）／国語	63,000
			えんぴつふで水書用具セット（1セット）／書写	28,000
			大きい数スタンドボード黒板（1枚）／算数	27,500
			実物投影機（1台）／理科	43,000
			ミニグロッケン（1台）／音楽	139,425
			版画用ゴムローラー（1セット）／図画工作	37,900
			絵画作品乾燥棚（1台）／図画工作	73,000
			ブックトラック（1台）／図書室用	101,200
			ラミネーター（1台）／視聴覚教育	36,300
			屋根付き折りたたみシールド（1個）／特別支援教育	29,900
			グループボード（1台）／特別支援教育	44,900
			ポケットーク（翻訳機・1台）／外国児童用	35,530
説明 計			659,655	
17	備品購入費	図書購入費	児童用図書：488冊	799,905
説明 計			799,905	

「2-1-5適切な学校施設の維持・管理」に関連する工事請負費【佐々中学校管理費】(決算書P176)

節		説明	工事名	工事内容	決算額(円)
14	工事請負費	佐々中学校B棟教室間仕切工事	佐々中学校B棟教室間仕切工事	パソコン室を普通教室(2室)に間仕切り	1,630,200
説明 計					1,630,200

「2-1-5適切な学校施設の維持・管理」に関連する備品購入費【佐々中学校管理費】(決算書P176)

節		説明	備品名称及び数量	決算額（円）
17	備品購入費	管理用備品	生徒用机・椅子（机：10台、椅子：20脚）	535,700
			熱中症対策用製氷機（1台）	517,000
			防犯カメラ用テレビ（1台）	106,700
			刈払機（1台）	48,400
			担架収納ボックス（1台）	44,000
説明 計				1,251,800
節		説明	備品名称及び数量	決算額（円）
17	備品購入費	給食用備品	和え物用冷蔵庫（1台）	312,400
			下処理室用エアコン（1台）	165,000
			洗濯機（1台）	86,480
			ラック・スノコ棚 5 段（1台）	69,300
			休憩室用冷蔵庫（1台）	58,300
			かぼちゃカッター（1台）	42,900
説明 計				734,380

「2-1-5適切な学校施設の維持・管理」に関連する備品購入費【佐々中学校教育振興費】（決算書P178）

節		説明	備品名称及び数量	決算額（円）
17	備品購入費	教材備品	ポケトーク（翻訳機・2台）／英語	71,060
			跳び箱（1台）／体育	134,640
			システムテーブル（1台）／家庭科	51,370
			プロジェクター（1台）／視聴覚教育	440,000
			プロジェクター台（1台）／視聴覚教育	45,000
			ベーシックアンプ（1台）／視聴覚教育	78,650
			ホワイトボード（1台）／普通教室用	60,940
			両面脚付ホワイトボード（1台）／図書室用	56,760
説明 計				938,420
17	備品購入費	図書購入費	生徒用図書：723冊	1,399,938
説明 計				1,399,938
17	備品購入費	ブラスバンド備品	ユーフォニアム（1台）	357,500
説明 計				357,500

【このページは空白です】

事業番号		2 - 3 - ◆			担当課	教育委員会	担当班	社会教育班	
事業名		生涯現役講座運営事業							
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち				予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標	生涯にわたって学ぶことができる機会をつくる					款	10	教育費
	法令根拠条例等	社会教育法					項	5	社会教育費
	個別計画	第三期 佐々町教育振興基本計画					目	1	社会教育総務費

1 事業内容

【行動指針】

・長崎県立大学等の高等教育機関等と連携し、高齢者の生きがいがづくり・仲間づくりを目的に、各種講座プログラムを運営します。

【事業概要】

○教育委員会主催講座における長崎県立大学との連携

「眠るって何だろう？脳が操る睡眠メカニズム」と題して、長崎県立大学看護栄養学部栄養健康学科教授田中進氏を講師に招き講座を開催しました。（明生大学）

○高齢者の生きがいがづくり・仲間づくり（決算額 372,620円）

＜明生大学＞一般男女を対象とした講座

移動学習、人権講話、悪徳商法に騙されないためになど、計10回の講座を開催し合計239名の参加がありました。

＜さざんか教室＞一般女性を対象とした講座

今さら聞けない冠婚葬祭マナーやヨガ体験、調理実習など、計10回の講座を開催し、合計158名の参加がありました。

明生大学(悪徳商法に騙されないために)の様子



さざんか教室（薬膳カレーづくり）の様子



2 コスト (単位: 円)

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		242, 295	272, 819	372, 620	393, 000
財源	国庫支出金				
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	242, 295	272, 819	372, 620	393, 000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	各種講座参加者数【総合戦略】 【単】	573人/年	人	目標	600/年	600/年	600/年	600/年	600/年	149%
				実績	324	424	669	895	-	
成果	町立図書館1人あたりの貸出冊数 【単】	10.4冊/年	冊	目標	増加	増加	増加	増加	増加	74%
				実績	10.4	9.1	8.9	7.7	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
有効性	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☒ 目標を達成している	
		☐ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
効率性	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）

高齢者の生きがいづくり・仲間づくりを目的としたプログラムに取り組むことができ、成果指標を達成できました。今後も誰もが参加しやすいテーマ作りや講座の周知を行い、成果指標の達成を維持します。

評価の結果

A

業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

委員会意見
特記事項なし
委員会評価
現状維持 ・ 見直し ・ 廃止

事業番号		2 - 3 - 2		担当課	教育委員会	担当班	社会教育班		
事業名		各種講座を通じた指導者・ ティーチャーの養成							
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち				予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標	生涯にわたって学ぶことができる機会をつくる					款	10	教育費
	法令根拠条例等	社会教育法					項	5	社会教育費
	個別計画	第三期 佐々町教育振興基本計画					目	1	社会教育総務費

1 事業内容

【行動指針】

・各種講座の開催を通じて、受講者が親近感をもてる町民の指導者を養成します。

【事業概要】

○教育委員会主催講座における地域住民の活用推進

明生大学において2回、さざんか教室において4回、あひる学級において2回、本町住民の方による学級・講座の講師を務めていただきました。

＜明生大学＞一般男女を対象とした講座

講座内容	講師等	実施状況	満足度
町長講話	佐々町長	参加24名	95%
歴史さんぽ 公民館周辺の史跡めぐり	郷土史家	参加14名	90%

＜さざんか教室＞一般女性を対象とした講座

講座内容	講師等	実施状況	満足度
足裏マッサージ～健康は足の裏から～	若石健康法認定講師	参加28名	100%
町長講話	佐々町長	参加15名	—
折り紙で春を楽しもう	生涯学習コーディネーター	参加 8名	100%
春の寄せ植え	ガーデンコーディネーター	参加13名	100%

＜あひる学級＞未就学児の保護者を対象とした講座

講座内容	講師等	実施状況	満足度
佐々町『ぽっかぽか』な子育て支援について	多世代包括支援センター	参加14名	100%
ちゃんと見えているかな？幼児期の眼に良い事、気をつけること	眼鏡作成技能士	参加15名	100%

明生大学の様子



あひる学級の様子



2 コスト (単位：円)

区分	R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費	194, 000	410, 600	386, 400	380, 000
財源	国庫支出金			
	県支出金			
	その他特定財源			
	地方債			
	一般財源	194, 000	410, 600	386, 400

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	各種講座参加者数【総合戦略】 【単】	573人/年	人	目標	600/年	600/年	600/年	600/年	600/年	149%
				実績	324	424	669	895	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☒ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）		評価の結果	
各講座において、町民の方に講師を務めていただきました。受講者の満足度も高く、充実した講座でした。 今後とも、地域人材を活用した指導者、ティーチャーの育成に努めます。		A	業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		2 - 5 - 1		担当課	教育委員会	担当班	社会教育班
事業名		郷土史学習講座の開催					
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち			予算科目	会計	一般会計
	戦略目標	歴史や文化財、伝統文化を守り、育てる				款	10 教育費
	法令根拠条例等	社会教育法				項	5 社会教育費
	個別計画	第三期 佐々町教育振興基本計画				目	1 社会教育総務費

1 事業内容

【行動指針】

・明生大学（高齢者講座）やさざんか教室（女性講座）、特別講座（歴史講座～海流が運ぶ文化・交流～）において、郷土史をテーマに取り入れた講座を開催していきます。

【事業概要】

・郷土史学習講座の開催については、特別講座3回開催し、郷土学習の機会の提供に努めました。
（決算額 42,000円）

＜特別講座 歴史講座～海流が運ぶ文化・交流～＞

1	海の武士団 松浦党	松浦史料博物館 学芸員	20名
2	平戸から台湾へ 鄭成功の軌跡	松浦史料博物館 館長	25名
3	黄檗文化って何？隠元和尚が伝えた中国文化	長崎県歴史文化博物館 研究員	17名
計			62名

第1回講座の様子



第3回講座の様子



2 コスト （単位：円）

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		28,000	20,000	42,000	80,000
財源	国庫支出金				
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	28,000	20,000	42,000	80,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	社会教育講座における郷土史学習の受講者数（各回平均）【単】	26人/回	人	目標	30/回	30/回	30/回	30/回	30/回	67%
				実績	21	23	20	20	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☒ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）

本年度は全3回とも実施ができ、受講者は本町の歴史について、理解を深めることができました。今後も引き続き本町の歴史の学習機会を作っていきます。

評価の結果

A

業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		2 2 3			担当課	教育委員会	担当班	社会教育班	
事業名		青少年健全育成活動の支援							
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち				予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標	学校・家庭・地域が連携協力し子どもの教育を充実する					款	10	教育費
	法令根拠条例等	社会教育法					項	5	社会教育費
	個別計画	第三期 佐々町教育振興基本計画					目	2 10	少年健全育成事業費 佐々っ子応援団推進費

1 事業内容

【行動指針】

・佐々町青少年健全育成会による活動の支援や、県民運動「ココロねっこ運動」、佐々っ子応援団の活動を通して、子ども・青少年を健全に育成する活動を支援します。

【事業概要】

○青少年健全育成会の活動

<4月>

・白ポスト有害図書類回収 参加 4名

<6月>

・「少年の主張」佐々大会 参加約70名

・危険箇所標識作成（17本作製） 参加 9名

<7月>

・「少年の日」の広報・啓発

・町非行防止対策協議会 参加 35名

・「家庭の日」の広報・啓発

・白ポスト有害図書類回収 参加 4名

<8月>

・夏休み夜間パトロール 参加 38名

<9月>

・「少年の主張」長崎県大会

令和6年度は、県大会出場には至りませんでした。（参考：応募数 県下120校・8,893編）

※推薦作品：「私の視界から見える現実」 佐々中学校3年

<11月>

・「少年の日」の広報・啓発

・遊びの広場 中止

・「家庭の日」の広報・啓発

・白ポスト有害図書類回収 参加 4名

<2月>

・白ポスト有害図書類回収 参加 4名

※年間587点を回収しました。

<3月>

・社会教育講演会 参加約40名

NPO法人 NGO GOODEARTH代表の藤原ひろのぶ氏を講師に招き、「世界とぼくらの繋がりのお話」と題して講演会を行いました。

○佐々っ子応援団の実施（決算額 328,875円）【再掲】

佐々っ子応援団（ボランティアスタッフ）の協力により、登校時の見守り活動を実施し、地域ぐるみで子どもたちの育成を行いました。

危険箇所看板作成の様子



少年健全育成事業費 1,032,721円

佐々っ子応援団推進費 328,875円（報償費除く）

【歳入財源内訳】

県支出金：決算書P38 権限移譲等事務交付金（教育） 34,000円

2 コスト （単位：円）

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		1,197,780	1,144,894	1,361,596	1,557,000
財源	国庫支出金				
	県支出金	37,000	37,000	34,000	34,000
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	1,160,780	1,107,894	1,327,596	1,523,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	地域子ども教室参加児童数 【総合戦略】【単】	674人/年	人	目標	700/年	700/年	700/年	700/年	700/年	76%
				実績	397	393	647	531	-	
成果	佐々子応援団見守り活動 参加者数【総合戦略】【単】	70人程度	人	目標	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	100%
				実績	70	70	70	70	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・ 事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・ 意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
・ 自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である		
	☐ 検討の余地がある		
	☐ 検討の余地が多い		
有効性	・ 意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☒ 目標を達成している	3
		☐ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
	・ 対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・ 業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）

成果指標の実績は達成でき、佐々子応援団及び佐々町青少年健全育成会を中心に、子どもたち・青少年の健全育成活動に取り組むことができました。
今後も引き続き充実していきたいと考えます。

評価の結果

A

業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		2 - 6 - 1		担当課	教育委員会	担当班	社会教育班		
事業名		町民主体の文化芸術活動への支援							
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち				予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標	多彩な芸術・文化の充実を図る					款	10	教育費
	法令根拠条例等	社会教育法					項	5	社会教育費
	個別計画	第三期 佐々町教育振興基本計画					目	1	社会教育総務費

1 事業内容

【行動指針】

・伝統行事や文化的事業をはじめ、町民や地域が主体的に行う芸術・文化活動に補助を行うなどの支援を行います。

【事業概要】

- ・佐々町文化協会への補助金交付（決算額570,000円）
文化芸術活動を行っている、23団体、約276名で構成される佐々町文化協会に、活動を支援するため助成を行いました。11月2・3日に町民文化祭と佐々青少年音楽祭を開催予定でしたが、大雨警報により11月3日のみ開催しました。
- ・自主文化事業の開催（決算額 1,382,597円）
例年、文化会館にて文化公演を行っており、今年度は子ども向けのサーカス公演「コミカル・クラウン・サーカス」を実施し、678名の来場者がありました。
- ・長崎県青少年劇場の開催（決算額 477,748円）
今年度は中学生を対象に11月14日に文化会館にて長崎県青少年劇場による「連弾RENDAN〜1台のピアノと2人のピアニスト〜」を公演し、合計408名の生徒、教職員が鑑賞しました。

青少年劇場の様子



自主文化事業の様子



【歳入財源内訳】

県支出金： 決算書P36 長崎県青少年劇場開催事業補助金 222,000円
 その他特定財源：決算書P48 文化公演入場料 485,500円

2 コスト (単位：円)

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		570,000	2,663,458	2,430,345	1,021,000
財源	国庫支出金				
	県支出金			222,000	222,000
	その他特定財源		207,000	485,500	
	地方債				
	一般財源	570,000	2,456,458	1,722,845	799,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	町民文化祭の参加者数【単】	2,486人/年	人	目標	2,500/年	2,500/年	2,500/年	2,500/年	2,500/年	45%
				実績	0	1670	1,550	1,122	-	
成果	文化会館年間利用者数【単】	32,807人/年	人	目標	32,900/年	32,900/年	32,900/年	32,900/年	32,900/年	43%
				実績	17,883	26,988	18,635	14,241	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・ 事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・ 意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
・ 自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である		
	☐ 検討の余地がある		
	☐ 検討の余地が多い		
有効性	・ 意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している	3
		☒ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
		☒ 適切である	
	・ 対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
・ 手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である		
	☐ 改善の余地がややある		
	☐ 改善の余地が多い		
効率性	・ 業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
・ 財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である		
	☐ 改善の余地がややある		
	☐ 改善の余地が多い		

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）

成果指標は達成できませんでしたが、町民や子どもたちが芸術文化に触れる機会の提供を行いました。引き続き、機会の提供に努めるとともに、文化的事業を行う中心的な団体である「佐々町文化協会」を支援していきます。

評価の結果	A	業務の内容は適切である
-------	---	-------------

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

「2-6-1 町民主体の文化芸術活動への支援」に関連する委託料【芸術文化事業費（10.5.7）】（決算書P188）

節		説明	委託名	決算額(円)
12	委託料	文化公演事業委託料	文化公演事業委託料	1,135,310
説明 計				1,135,310

【このページは空白です】

事業番号		7 3 4		担当課	教育委員会	担当班	社会教育班		
事業名		地域コミュニティ団体への支援							
総合計画上の位置づけ	基本目標	「情報共有・協働」のみんなのまち				予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標	身近な課題を解決する地域コミュニティを育てる					款	10	教育費
	法令根拠条例等	社会教育法					項	5	社会教育費
	個別計画	第三期 佐々町教育振興基本計画					目	1・2	社会教育総務費他

1 事業内容

【行動指針】

・町内会における地域コミュニティ活動の活性化を推進するため、各町内会の公民館・婦人会・子ども会育成会へ助成を行い、活発な地域づくりへの支援を行います。

【事業概要】

- 各町内会公民館運営に対する助成（決算額1,042,820円）【10.5.4.18】の一部
31町内会（町内会に公民館がない牟田原町内会を除く）に対して、人口や活動状況に応じた助成を行い活動の活性化を推進しました。
- 各町内会婦人会に対する助成（決算額334,000円）【10.5.1.18】の一部
19町内会の婦人会に対して、活動状況に応じた助成を行い活動の活性化を推進しました。
- 各町内会子ども会に対する助成（決算額477,820円）【10.5.2.18】の一部
21町内会（内、合同活動2町内会含む）に対して、全国子ども会連合会への加入に対する助成や活動状況に応じた助成を行い活動の活性化を推進しました。

2 コスト （単位：円）

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		1,855,960	1,856,335	1,854,640	1,857,000
財源	国庫支出金				
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	1,855,960	1,856,335	1,854,640	1,857,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	町内会加入率【単】	73%	%	目標	78	78	78	78	78	87%
				実績	71	70	68	67	-	
成果	子ども会加入率（小学生）【単】	90%	%	目標	95	95	95	95	95	62%
				実績	85	79	72	59	-	
成果	ボランティア団体数【累】	15団体	団体	目標	-	-	-	-	20	80%
				実績	15	15	16	16	-	
成果	町内会公民館活動の取組種類（各町内会平均）【単】	10種類	種類	目標	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	100%
				実績	8	8	9	10	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
有効性	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☒ 目標を達成している	
		☐ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
効率性	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）		評価の結果	A	業務の内容は適切である
地域コミュニティへの助成は、佐々町の子どもを育み、婦人会、公民館活動を支援するものです。子ども会加入率は低下しており成果指標を達成できませんでした。子ども会加入率低下の大きな要因は役員の負担や活動等の多忙化が挙げられています。生活スタイルが多様化するなかで子ども会の魅力を周知する必要があります。これからは地域コミュニティに対して支援を行い活発な地域づくりに努めます。				

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		2 - 5 - 2		担当課	教育委員会	担当班	社会教育班	
事業名		文化財の保存と活用						
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち			予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標	歴史や文化財、伝統文化を守り、育てる				款	10	教育費
	法令根拠条例等	文化財保護法				項	5	社会教育費
	個別計画	第三期 佐々町教育振興基本計画				目	3	文化財費

1 事業内容

【行動指針】

- ・文化財が次世代に引き継がれるように、環境整備を行うなど適切に保存していきます。
- ・文化財について、ホームページなどを活用して周知・広報を行います。
- ・前佐々町郷土資料館の収蔵品は、検討委員会で示された答申に基づいて適切に保存していきます。

【事業概要】

- ・文化財の保存環境を適正に保つため、県指定文化財の「市の瀬血山窯跡、狸山支石墓群」及び町指定文化財の「旧正興寺古井戸」について、除草、清掃等を行い文化財の環境保全に努めました。（決算額 193,649円）
- ・神田雅楽への活動補助金の交付（決算額 161,000円）
- ・佐々町無形文化財指定の神田雅楽への活動補助金については、定期練習会に要する費用について補助を行いました。
- ・佐々町狸山支石墓群出土ヒスイ製大珠が令和5年10月5日に長崎県指定文化財になったことを記念して、令和7年1月26日に講演会を開催し、約40名の参加がありました。（決算額 160,000円）

狸山支石墓群とヒスイ製大珠



神田雅楽



正興寺古井戸



記念講演会の様子



【歳入財源内訳】

県支出金：決算書P38 権限移譲等事務交付金 1,000円

2 コスト (単位：円)

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		1,476,911	7,765,822	598,188	695,000
財源	国庫支出金				
	県支出金	1,000	1,000	1,000	1,000
	その他特定財源	2,500			
	地方債				
	一般財源	1,473,411	7,764,822	597,188	694,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	社会教育講座における郷土史学習の受講者数（各回平均）【単】	26人/回	人	目標	30/回	30/回	30/回	30/回	30/回	67%
				実績	21	23	20	20	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☒ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）

本町の史跡について、適正な維持管理に努めました。前佐々町郷土資料館の収蔵品は公民館に保管しています。また、長崎県指定（狸山支石墓群出土ヒスイ製大珠）が令和5年10月5日に指定されたため新庁舎での展示等を検討します。

評価の結果

A

業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		2 - 3 - 3		担当課	教育委員会	担当班	社会教育班			
事業名		施設機能の充実								
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち				予算科目	会計	一般会計		
	戦略目標	生涯にわたって学ぶことができる機会をつくる					款	10	教育費	
法令根拠条例等		社会教育法					項	5	社会教育費	
個別計画		第三期 佐々町教育振興基本計画、佐々町こども読書活動推進計画、西九州させば広域都市圏ビジョン					目	4 8	公民館費 図書館費	

1 事業内容

【行動指針】	
・ 公民館は、町民に最も身近な生涯学習の拠点として講座や教室などの拡充を行い、多世代交流の場としても魅力ある施設にします。	
・ 図書館は、適切な選書、県立図書館や西九州させば広域都市圏との連携により、町民が気軽に読書に親しむことができる場として機能を充実させます。	
【事業概要】	
○公民館主催講座の開催（決算額 88,580円）【再掲】	
令和6年度は料理講座を5回予定し、すべて開催することができました。また、家庭菜園体験教室は全3回の講座を計画して、すべて開催することができました。	
＜公民館講座／料理講座「郷土料理を楽しく身近に」＞一般男女を対象とした講座	
・ 5回計画し、5回実施、計92名の参加	
＜公民館講座／家庭菜園体験教室「家庭菜園を楽しみましょう」＞一般男女を対象とした講座	
・ 農業体験施設において、土づくり～追肥・除草～収穫の3回を計画し、3回実施、計51名の参加	
○図書館施設機能の充実（決算額 31,486,400円）	
令和5年3月に策定された地球温暖化対策実行計画に基づき、図書館照明のLED化工事を行いました。	
○図書館事業（決算額 53,990円）【再掲】	
図書ボランティアによる読み聞かせや各種イベントを開催し、読書に親しむ活動を行いました。	
＜学校読み聞かせ＞	
・ 通年…146回開催	
＜図書館読み聞かせ＞	
・ 通年…99回開催 参加914名	
＜図書館イベント＞	
・ 4月 …開館記念行事 参加465名	
・ 5月…としょかんこどもまつり 参加394名	
・ 8月…としょかん夏まつり 参加457名	
・ 11月…としょかん文化まつり ※LED工事のため中止	
・ 12月…図書館講座 参加8名	
・ 3月…図書館講演会（広域） 参加26名	
(6年度決算額) 10.5.4. 公民館費 22,767,821円 10.5.8. 図書館費 78,709,894円 計101,477,715円	
【歳入財源内訳】	
地方債 : 決算書P54 (脱炭素化推進事業債) 図書館LED化事業 28,300,000円	
その他特定財源: 決算書P22 公民館使用料 301,160円 町民体育館使用料 1,259,000円	
その他特定財源: 決算書P22 町民体育館トレーニング室使用料 419,540円 夜間照明使用料の40% 248,996円	
その他特定財源: 決算書P42 公共施設整備基金繰入金(図書館照明LED化事業) 3,100,000円	
その他特定財源: 決算書P48～50 コピー代 197,340円 住民センター自動販売機設置料 200,528円	
その他特定財源: 決算書P48～50 商工会電灯料 450,000円 図書の弁償代 22,560円 電話料(図書館分) 7,610円	

2 コスト (単位:円)

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		70,837,050	70,748,503	101,477,715	73,175,000
財源	国庫支出金	4,491,857			
	県支出金				
	その他特定財源	2,881,744	2,991,332	6,206,734	2,871,000
	地方債		1,100,000	28,300,000	
	一般財源	63,463,449	66,657,171	66,970,981	70,304,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	各種講座参加者数【総合戦略】 【単】	573人/年	人	目標	600/年	600/年	600/年	600/年	600/年	149%
				実績	324	424	669	895	-	
成果	町立図書館1人あたりの貸出冊数 【単】	10.4冊/年	冊	目標	増加	増加	増加	増加	増加	74%
				実績	10.4	9.1	8.9	7.7	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・ 事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・ 意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
・ 自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である		
	☐ 検討の余地がある		
	☐ 検討の余地が多い		
有効性	・ 意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している	3
		☒ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
		☒ 適切である	
	・ 対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
		・ 手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	
	☐ 改善の余地がややある		
	☐ 改善の余地が多い		
効率性	・ 業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）

講座については、年々増加傾向にあり、成果指標も達成できました。しかし、町立図書館1人あたりの貸出冊数は若干減少しました。電子機器の進化や普及等により、読書離れが増えたことが要因だと考えます。今後も、生涯学習の拠点として公民館、図書館の事業に取り組み、利用しやすい施設・環境作りに努めます。

評価の結果

A

業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

「2-3-3 施設機能の充実」に関連する工事費【図書館費（10.5.8）】（決算書P190）

節	説明	委託名	決算額(円)
14 工事請負費	図書館照明LED化 工事	図書館照明LED化工事	31,486,400
説明 計			31,486,400

「2-3-3 施設機能の充実」に関連する備品購入費【公民館費（10.5.4）】（決算書P184）

節	説明	備品名称及び数量	決算額(円)
17 備品購入費	館内備品	Wi-Fiルーター	12,100
説明 計			12,100

「2-3-3 施設機能の充実」に関連する備品購入費【図書館費（10.5.8）】（決算書P190）

節	説明	備品名称及び数量	決算額(円)
17 備品購入費	図書購入費	図書（3,522冊）	6,521,343
		AV資料（51点）	478,645
	館内備品	ブックトラック：1台	47,850
説明 計			7,047,838

【このページは空白です】

事業番号		2 - 3 - 1		担当課	教育委員会	担当班	社会教育班	
事業名		生涯学習機会や大学などと連携した 内容の充実と支援						
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち			予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標	生涯にわたって学ぶことができる機会をつくる				款	10	教育費
	法令根拠条例等	社会教育法				項	5	社会教育費
	個別計画	第三期 佐々町教育振興基本計画				目	1 4	社会教育総務費 公民館費

1 事業内容

【行動指針】

- ・町民のそれぞれのライフステージに応じた学習機会の提供と学習内容を充実するため、公民館、地域交流センター、図書館などを活用した各種講座を開催します。
- ・社会人や高齢者の学習ニーズに対応し、専門的な講座内容を提供するため、県立大学等と連携した学習機会を充実します。

【事業概要】

○教育委員会主催講座の開催（決算額 745,951円）

明生大学、さざんか教室、あひる学級とそれぞれのライフステージに応じた学習機会の提供に努めました。

また、「歴史講座～海流が運ぶ文化・交流～」として、全3回（62名参加）開催し郷土学習の機会の提供に努めました。

○公民館主催講座の開催（決算額 88,580円）

令和6年度は料理講座を5回予定し、すべて開催することができました。実施した講座では、累計92人の参加がありました。また、家庭菜園体験教室を全3回の講座を計画して、すべて開催することができました。講座の参加人数は累計51名でした。

○県立大学と連携した学習機会の創造（決算額 0円）

長崎県立大学 看護栄養学部栄養健康学科 教授 田中進氏を講師に招き講座を開催しました。「眠るって何だろう？脳が操る睡眠メカニズム」と題して、脳の睡眠覚醒中枢が発見され、睡眠に関してわかったこと、また睡眠の意義に関する最近の考え方などをご教授していただきました。講座の参加人数は28名でした。

各種学級講座講師謝礼金 他 745,951円

公民館講座講師謝礼金 他 88,580円

県立大学連携講座の様子



特別講座の様子



2 コスト （単位：円）

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		443,959	739,131	834,531	779,500
財源	国庫支出金				
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	443,959	739,131	834,531	779,500

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	各種講座参加者数【総合戦略】 【単】	573人/年	人	目標	600/年	600/年	600/年	600/年	600/年	149%
				実績	324	424	669	895	-	
成果	町立図書館1人あたりの貸出冊数 【単】	10.4冊/年	冊	目標	増加	増加	増加	増加	増加	74%
				実績	10.4	9.1	8.9	7.7	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・ 事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・ 意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
・ 自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である		
	☐ 検討の余地がある		
	☐ 検討の余地が多い		
有効性	・ 意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☒ 目標を達成している	3
		☐ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
	・ 対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・ 業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）

町民のライフステージに応じた学習機会の提供に取り組むことができました。
今後も生涯にわたって学ぶことができるよう引き続き実施していきたいと考えます。

評価の結果	A	業務の内容は適切である
-------	---	-------------

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		2 3 4			担当課	教育委員会	担当班	社会教育班	
事業名		地域交流センターの利用促進							
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち				予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標	生涯にわたって学ぶことができる機会をつくる					款	10	教育費
	法令根拠条例等	社会教育法					項	5	社会教育費
	個別計画	第三期 佐々町教育振興基本計画					目	5	地域交流センター費

1 事業内容

【行動指針】

- ・多世代間の交流、憩い、健康づくりなど、町内外から多くの人たちが集い活動する多目的施設として、ホームページなどを活用して周知を図り、利用者を増やします。

【事業概要】（令和6年度決算額 3,292,761円）

- ・教育委員会主催講座や社会教育関係団体研修会等で施設を積極的に活用し、町民の生涯学習の拠点として充実を図りました。

地域交流センターの利用状況

	R3	R4	R5	R6
利用回数	752	1,006	876	1,141
利用者数	15,731	20,237	20,782	23,330

【歳入財源内訳】

その他特定財源：決算書P22 地域交流センター使用料 629,300円

2 コスト（単位：円）

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		28,269,824	3,416,778	3,292,761	3,722,000
財源	国庫支出金	1,164,373			
	県支出金				
	その他特定財源	707,050	607,600	629,300	650,000
	地方債	23,900,000			
	一般財源	2,498,401	2,809,178	2,663,461	3,072,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	各種講座参加者数【総合戦略】 【単】	573人/年	人	目標	600/年	600/年	600/年	600/年	600/年	149%
				実績	324	424	669	895	-	
成果	町立図書館1人あたりの貸出冊数 【単】	10.4冊/年	冊	目標	増加	増加	増加	増加	増加	74%
				実績	10.4	9.1	8.9	7.7	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・ 事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・ 意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
・ 自治体関与の必要性 （自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である		
	☐ 検討の余地がある		
	☐ 検討の余地が多い		
有効性	・ 意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している	3
		☒ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
	・ 対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
・ 手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である		
	☐ 改善の余地がややある		
	☐ 改善の余地が多い		
効率性	・ 業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
・ 財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である		
	☐ 改善の余地がややある		
	☐ 改善の余地が多い		

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）

地域交流センター利用者は年々増加傾向にあり、それに伴い、講座の参加者数も成果指標を達成できています。引き続き、利用しやすい環境となるよう、施設の維持や整備等を図っていきます。

評価の結果

A

業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号	7 3 3		担当課	教育委員会	担当班	社会教育班		
事業名	地域コミュニティ活性化に伴う 研修機会の充実							
総合計画 上の位置 づけ	基本目標	「情報共有・協働」のみんなのまち			予算 科目	会計	一般会計	
	戦略目標	身近な課題を解決する地域コミュニティを育てる				款	10	教育費
法令根拠条例等	社会教育法			項		5	社会教育費	
個別計画	第三期 佐々町教育振興基本計画			目		4	公民館費	

1 事業内容

【行動指針】

- ・町内会公民館連絡協議会の各種研修や相互の意見交換を行い、地域の課題解決や地域コミュニティの活性化に対する研修機会の充実を行います。
- ・町内会子ども会育成会を対象とした研修を通して、地域ぐるみでの子育て支援の体制づくりを行います。
- ・地域コミュニティの活性化をテーマとした研修会やワークショップを開催するなど、ボランティア団体の育成支援に取り組みます。

【事業概要】

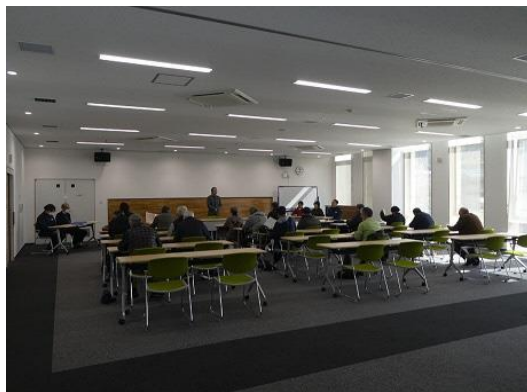
○公民館連絡協議会研修会（決算額 6,000円）

- ・例年、町内公民館連絡協議会研修会を年3回行い、それぞれ講師をお呼びして研修会を行っています。令和6年度は、第74回長崎県公民館大会（10名参加）、『河川の防災対策について～水害に備えて～』と題して県土木部河川課 技師高田崇文氏（16名参加）、『ニュースポーツを楽しもう』と題してさざ俱樂部 宮島さん、松永さん、久保さん（17名参加）全3回を無事行うことができました。

○町内会子ども会事業説明会の実施（決算額 0円）

- ・4月16日に子ども会育成連絡会を開催し、子ども会の意義や活動目的について研修するとともに事業について説明を行いました。

公民館連絡協議会研修会の様子



2 コスト （単位：円）

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		0	77,420	6,000	150,000
財源	国庫支出金				
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	0	77,420	6,000	150,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	町内会加入率【単】	73%	%	目標	78	78	78	78	78	87%
				実績	71	70	68	67	-	
成果	子ども会加入率（小学生）【単】	79	%	目標	95	95	95	95	95	62%
				実績	85	79	72	59	-	
成果	ボランティア団体数【果】	15団体	団体	目標	-	-	-	-	20	80%
				実績	15	15	16	16	-	
成果	町内会公民館活動の取組種類（各町内会平均）【単】	10種類	種類	目標	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	100%
				実績	8	8	9	10	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
有効性	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している	
		☒ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
効率性	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）		評価の結果	
町内公民館連絡協議会研修会では、災害発生時の公民館としての役割や町内会活動の活性化に向けて学ぶことができました。また、子ども会では子ども会の目的などを学ぶことで町内会子ども会の活動の活性化を図りました。引き続き、研修等を開催していきたいと考えます。		A	業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		2 6 3		担当課	教育委員会	担当班	社会教育班	
事業名		文化会館の利用促進						
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち			予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標	多彩な芸術・文化の充実を図る				款	10	教育費
	法令根拠条例等	社会教育法				項	5	社会教育費
	個別計画	第三期 佐々町教育振興基本計画				目	6	文化会館費

1 事業内容

【行動指針】

- ・町民文化祭や文化公演など、芸術文化の発信拠点としての文化会館の機能を充実し、適切な維持管理を行います。

【事業概要】

文化会館費 12,644,486円

- ・文化会館の維持管理（令和6年度決算額 12,644,486円）

主な内容として、施設の維持管理の為、清掃業務、管理業務、照明・音響等の保守点検業務を委託しました。
 なお、利用人数は新庁舎建設の影響もあり利用者減となりました。また、施設老朽化もあり、大ホール空調機や舞台階段など館内各施設の修繕を行いました。

<佐々町文化会館利用者数等>

	R2	R3	R4	R5	R6
利用回数	423	511	699	581	372
年間利用者数	10,867	17,883	26,988	18,635	14,241

【歳入財源内訳】

その他特定財源：決算書P22 文化会館使用料 1,195,947円
 決算書P50 文化会館清涼飲料水自動販売機設置料 52,422円

2 コスト （単位：円）

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		12,695,452	11,454,765	12,644,486	13,867,000
財源	国庫支出金	1,999,800			
	県支出金				
	その他特定財源	1,822,969	1,664,174	1,248,369	1,348,000
	地方債				
	一般財源	8,872,683	9,790,591	11,396,117	12,519,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	町民文化祭の参加者数【単】	2,486人/年	人	目標	2,500/年	2,500/年	2,500/年	2,500/年	2,500/年	45%
				実績	0	1,670	1,550	1,122	-	
成果	文化会館年間利用者数【単】	32,807人/年	人	目標	32,900/年	32,900/年	32,900/年	32,900/年	32,900/年	43%
				実績	17,883	26,988	18,635	14,241	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・ 事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・ 意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
・ 自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である		
	☐ 検討の余地がある		
	☐ 検討の余地が多い		
有効性	・ 意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している	3
		☒ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
	・ 対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
・ 手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☐ 改善の余地が多い		
効率性	・ 業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
・ 財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である		
	☐ 改善の余地がややある		
	☐ 改善の余地が多い		

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）		
文化会館利用者は通常に戻りつつありますが、新庁舎建設の影響で駐車場が少なくなり、利用者が減少しました。また、施設老朽化もあり館内施設の修繕が増加していますが、適宜対応しながら文化会館の利用者増に努めます。	評価の結果	A 業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		2 - 2 - 1			担当課	教育委員会	担当班	社会教育班	
事業名		読書活動の充実							
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち				予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標	学校・家庭・地域が連携協力し子どもの教育を充実する					款	10	教育費
	法令根拠条例等	社会教育法					項	5	社会教育費
	個別計画	第三期 佐々町教育振興基本計画、佐々町子ども読書活動推進計画					目	8 11	図書館費 地域子ども教室推進事業費

1 事業内容

【行動指針】

・「佐々町子ども読書活動推進計画」に基づいて、図書ボランティアによる学校での読み聞かせなど、町立図書館と学校や保育所などとの連携を高め、子どもの成長段階に応じて、読書に親しむ機会を創出します。

【事業概要】

○図書館事業（決算額 95,000円）

図書ボランティアによる読み聞かせや各種イベントを開催し、読書に親しむ活動を行いました。

＜学校読み聞かせ＞

・通年～146回開催

＜図書館読み聞かせ＞

・通年～99回開催

参加914名

＜図書館イベント＞

・4月 ～開館記念行事

参加465名

・5月 ～としょかんこどもまつり

参加394名

・8月 ～としょかん夏まつり

参加457名

・11月～県北読み聞かせグループ交流会（平戸市開催）

・11月～としょかん文化まつり

※ 中止

・12月～図書館講座

参加 8名

・3月 ～図書館講演会

参加 26名

○土曜学習プログラムの開催（決算額 100,000円）【再掲】

町内のボランティアへ委託し、子どもたちの豊かな社会性・創造性を培い、また、学習意欲の向上を目指すため、土曜日や夏休みなどの学校休業日に、読み聞かせ活動を行いました。

＜読み聞かせ＞

・6月～3月 「よっといで お話の世界へ」として小学校低学年を対象とした図書館における読み聞かせを全12回計画し、10回開催いたしました。合計182名の参加がありました。

図書館費 図書館講座講師謝礼金

57,000円

地域子ども教室推進事業費 佐々っ子土曜学習プログラム謝礼金

100,000円

読み聞かせの様子



【歳入財源内訳】

県支出金：決算書P36 地域子ども教室推進事業費補助金 54,000円

2 コスト （単位：円）

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		201,000	205,000	153,000	211,000
財源	国庫支出金				
	県支出金	79,000	73,000	54,000	42,000
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	122,000	132,000	99,000	169,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	地域子ども教室参加児童数 【総合戦略】【単】	674人/年	人	目標	700/年	700/年	700/年	700/年	700/年	76%
				実績	397	393	647	531	-	
成果	佐々つ子応援団見守り活動 参加者数【総合戦略】【単】	70人程度	人	目標	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	100%
				実績	70	70	70	70	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している ☒ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）

本年度の土曜学習プログラムはほぼ予定どおり実施できましたが、成果指標の達成には至りませんでした。図書ボランティアをはじめ、地域のボランティアの協力による読み聞かせ活動やイベントを通して、読書に親しむ機会を創出しました。
今後も引き続き実施していきたいと考えます。

評価の結果	A	業務の内容は適切である
-------	---	-------------

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		2 - 6 - 2		担当課	教育委員会	担当班	社会教育班
事業名		子どもたちが芸術文化にふれあう 機会の提供					
総合計画 上の位置 づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち			予算 科目	会計	一般会計
	戦略目標	多彩な芸術・文化の充実を図る				款	10 教育費
法令根拠条例等		社会教育法				項	5 社会教育費
個別計画		第三期 佐々町教育振興基本計画				目	7 芸術文化事業費

1 事業内容

【行動指針】

- ・次世代を担う子どもたちに対し、小中学生を対象に舞台芸術の鑑賞や文化体験の場を設け、数多くの芸術・文化にふれあう機会を提供します。

【事業概要】

- ・西九州させば広域都市圏における連携事業
6月11日に「子どものための芸術体験教室」がアルカスSASEBOで開催され、佐々・口石小の5年生が鑑賞しました。
また、島瀬美術センターで開催された美術展覧会の無料招待券の配布を中学生に行いました。
- ・長崎県青少年劇場の開催（決算額 477,748円）【再掲】
今年度は中学生を対象に11月14日に文化会館にて長崎県青少年劇場による「連弾RENDAN〜1台のピアノと2人のピアニスト〜」を公演し、合計408名の生徒、教職員が鑑賞しました。

青少年劇場の様子



【歳入財源内訳】

県支出金：決算書P36 長崎県青少年劇場開催事業補助金 222,000円

2 コスト (単位：円)

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		2,566,951	0	477,478	451,000
財源	国庫支出金				
	県支出金	222,000		222,000	222,000
	その他特定財源	562,500			
	地方債				
	一般財源	1,782,451	0	255,478	229,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	町民文化祭の参加者数【単】	2,486人/年	人	目標	2,500/年	2,500/年	2,500/年	2,500/年	2,500/年	45%
				実績	0	1670	1,550	1,122	-	
成果	文化会館年間利用者数【単】	32,807人/年	人	目標	32,900/年	32,900/年	32,900/年	32,900/年	32,900/年	43%
				実績	17,883	26,988	18,635	14,241	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・ 事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・ 意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
・ 自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である		
	☐ 検討の余地がある		
	☐ 検討の余地が多い		
有効性	・ 意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している	3
		☒ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
		☒ 適切である	
	・ 対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
・ 手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である		
	☐ 改善の余地がややある		
	☐ 改善の余地が多い		
効率性	・ 業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
・ 財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である		
	☐ 改善の余地がややある		
	☐ 改善の余地が多い		

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）

次世代を担う小中学生に対して芸術鑑賞の機会を設けることができました。引き続き多くの子どもや町民の方々に芸術に触れる場を提供できるよう努めます。

評価の結果	A	業務の内容は適切である
-------	---	-------------

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		2 - 4 - 4			担当課	教育委員会	担当班	社会教育班	
事業名		体育文化振興基金の活用							
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち				予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標	誰もが気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しめる環境を充実する					款	10	教育費
	法令根拠条例等	社会教育法					項	5	社会教育費
	個別計画	第三期 佐々町教育振興基本計画					目	9	社会教育振興事業費

1 事業内容

【行動指針】

・体育文化の振興に寄与するため、体育文化振興基金を活用し、スポーツ・文化の各種大会に出場する選手への派遣費や町民が企画するスポーツ・文化イベントの開催に対して、助成を行います。

【事業概要】

・体育振興補助金

小学生～高校生以上を対象に、130件に対し派遣費の助成を行い、県や全国の大会等での町民の方々の活躍を支援することができました。

○小学生 56件 1,613,316円
○中学生 52件 1,163,175円
○高校生以上 22件 526,222円 計130件 3,302,713円

・文化振興補助金については、佐々町少年少女合唱団40周年記念演奏会の申請があり補助を行いました。
(決算額 400,000円)

佐々町少年少女合唱団40周年記念演奏会



【歳入財源内訳】

その他特定財源：決算書P42 体育文化振興基金繰入金 3,702,713円

2 コスト (単位：円)

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		2,951,814	4,235,395	3,724,313	4,000,000
財源	国庫支出金				
	県支出金				
	その他特定財源	2,951,814	4,000,000	3,702,713	4,000,000
	地方債				
	一般財源		235,395	21,600	

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	総合型地域スポーツクラブ会員数 【総合戦略】【累】	195人	人	目標	-	-	-	-	200	53%
				実績	91	95	95	105	-	
成果	スポーツイベントの参加者数 【総合戦略】【単】	908人/年	人	目標	920/年	920/年	920/年	920/年	920/年	144%
				実績	1077	1,300	1,377	1,327	-	
成果	ジョギングフェスティバルの 参加者数（平成30年度）【単】	1,809人/年	人	目標	2,000/年	2,000/年	2,000/年	2,000/年	2,000/年	62%
				実績	0	1,700	1,287	1,236	-	
成果	体育施設の利用者数【単】	117,428人/年	人	目標	119,000人/年	119,000人/年	119,000人/年	119,000人/年	119,000人/年	90%
				実績	89,677	103,568	109,101	107,234	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☒ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）

前年度と比較すると29件増加し、本町の児童・生徒が体育・文化の各種大会にたくさん参加できるよう支援を行いました。さらに、今年度は体育文化振興事業で申請があった1団体に支援を行いました。引き続き児童・生徒の体育・文化に対する育成のため、基金を有効に活用していきます。

評価の結果	A	業務の内容は適切である
-------	---	-------------

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		2 - 2 - ◆			担当課	教育委員会	担当班	社会教育班	
事業名		佐々っ子応援団推進事業							
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち				予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標	学校・家庭・地域が連携協力し子どもの教育を充実する					款	10	教育費
	法令根拠条例等	社会教育法					項	5	社会教育費
	個別計画	第三期 佐々町教育振興基本計画					目	10 11	佐々っ子応援団推進費 地域子ども教室推進事業費

1 事業内容

【行動指針】 ・高齢者や様々な技能・経験をもつ地域住民の協力により、子どもたちに体験活動や交流活動の機会を提供します。また、登校時の見守り活動を実施し、地域ぐるみで子どもたちの育成を図ります。 【事業概要】 ○さざ子ワクワクまなびタイムの開催（決算額 84,933円）参加者計44名 【再掲】 子どもたちの知識・見識を広めるため、小学生を対象に体験学習を開催しました。 ・ 7月…食品サンプル作り 定員30名 参加30名 ・ 10月…芋ほり体験 定員なし 参加予定25名 雨天のため中止 ・ 2月…調理実習 定員20名 参加14名 ○土曜学習プログラムの開催（決算額 400,000円）【再掲】 町内のボランティアへ委託し、子どもたちの豊かな社会性・創造性を培い、また、学習意欲の向上を目指すため、土曜日や夏休みなどの学校休業日に、様々な体験活動や交流活動を行いました。 ＜さざ自然・生物学習教室＞ ボランティアスタッフ21名 参加者計83名 ・生物観察や清掃活動、野鳥観察会など、7月～2月にかけて7回実施し、人数計83名の参加がありました。 ・3回の体験活動は雨天のため、中止となりました。 ＜読み聞かせ＞ ボランティアスタッフ延べ44名 ・6月～3月 「よっといで お話の世界へ」として小学校低学年を対象とした図書館における読み聞かせを10回実施し合計182名の参加がありました。 ＜佐々子スポーツ塾＞ ボランティアスタッフ18名 参加者計222名 ・陸上教室や体力テスト、ニュースポーツ（フライングディスクなど）など、5月～3月にかけて10回実施し、合計222名の参加がありました。 ○佐々子応援団の実施（決算額 328,875円）【再掲】 ・佐々子応援団（ボランティアスタッフ）の協力により、登校時の見守り活動を実施し、地域ぐるみで子どもたちの育成を図りました。 【歳入財源内訳】 県支出金：決算書P36 地域子ども教室推進事業費補助金 317,000円

2 コスト （単位：円）

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		841,425	825,695	813,808	697,000
財源	国庫支出金				
	県支出金	319,000	328,000	317,000	247,000
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	522,425	497,695	496,808	450,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	地域子ども教室参加児童数 【総合戦略】【単】	674人/年	人	目標	700/年	700/年	700/年	700/年	700/年	76%
				実績	397	393	647	531	-	
成果	佐々つ子応援団見守り活動 参加者数【総合戦略】【単】	70人程度	人	目標	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	100%
				実績	70	70	70	70	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
有効性	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している	
		☒ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）

地域子ども教室参加児童数は前年度より減少しており、成果指標の達成に至りませんでしたが、読み聞かせやスポーツなど多種多様なメニューで子どもたちの体験活動の機会を創出しました。また、地域ボランティアの見守り活動など、地域ぐるみによる子どもたちの育成を行うことができましたので、今後も引き続き実施していきたいと考えます。

評価の結果

A

業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

委員会意見
特記事項なし
委員会評価
現状維持 ・ 見直し ・ 廃止

事業番号		2 - 2 - 2			担当課	教育委員会	担当班	社会教育班	
事業名		地域教育力を担う人材の育成							
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち				予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標	学校・家庭・地域が連携協力し子どもの教育を充実する					款	10	教育費
	法令根拠条例等	社会教育法					項	5	社会教育費
	個別計画	第三期 佐々町教育振興基本計画					目	10 11	佐々っ子応援団推進費 地域子ども教室推進事業費

1 事業内容

【行動指針】 ・学校・家庭・地域が連携・協力した多様な教育活動に取り組み、学校教育の充実及びPTA活動の活性化を図り、家庭や地域の教育力の向上を行います。 ・学校支援活動の推進を通して、社会教育関係団体やボランティア団体、子育て・教育経験者、保護者など、地域教育力の向上を図る人材の育成を行います。 【事業概要】 ○土曜学習プログラムの開催（決算額 400,000円）【再掲】 町内のボランティアへ委託し、子どもたちの豊かな社会性・創造性を培い、また、学習意欲の向上を目指すため、土曜日や夏休みなどの学校休業日に、様々な体験活動や交流活動を行いました。 ○佐々っ子応援団の実施（決算額 328,875円）【再掲】 佐々っ子応援団（ボランティアスタッフ）の協力により、登校時の見守り活動を実施し、地域ぐるみで子どもたちの育成を図りました。 ○さざっ子ワクワクまなびタイムの開催（決算額 84,933円）参加者計44名 【再掲】 子どもたちの知識・見識を広めるため、小学生を対象に体験学習を開催しました。 ・ 7月…食品サンプル作り 定員30名 参加30名 ・ 10月…芋ほり体験 定員なし 参加予定25名 雨天のため中止 ・ 2月…調理実習 定員20名 参加14名 【歳入財源内訳】 県支出金：決算書P36 地域子ども教室推進事業費補助金 317,000円
--

2 コスト （単位：円）

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		841,425	893,695	813,808	827,000
財源	国庫支出金		0		
	県支出金	319,000	328,000	317,000	247,000
	その他特定財源		0		
	地方債		0		
	一般財源	522,425	565,695	496,808	580,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	地域子ども教室参加児童数 【総合戦略】【単】	674人/年	人	目標	700/年	700/年	700/年	700/年	700/年	76%
				実績	397	393	647	531	-	
成果	佐々っ子応援団見守り活動 参加者数【総合戦略】【単】	70人程度	人	目標	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	100%
				実績	70	70	70	70	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・ 事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・ 意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
・ 自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である		
	☐ 検討の余地がある		
	☐ 検討の余地が多い		
有効性	・ 意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☒ 目標を達成している	3
		☐ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
	・ 対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・ 業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・ 財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）

佐々っ子応援団見守り活動参加者数の成果指標は達成でき、学校・家庭・地域が連携した活動に取り組むことができました。
地域子ども教室参加児童数は惜しくも目標は達成できませんでしたが、参加された児童たちの満足度は高かったため、今後も引き続き実施していきたいと考えます。

評価の結果	A	業務の内容は適切である
-------	---	-------------

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		2 - 4 - ◆		担当課	教育委員会	担当班	社会教育班	
事業名		総合スポーツまちづくり振興事業						
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち			予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標	誰もが気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しめる環境を充実する				款	10	教育費
	法令根拠条例等	社会教育法				項	56	社会教育費 保健体育費
	個別計画	第三期 佐々町教育振興基本計画				目	111	地域子ども教室推進事業費 保健体育総務費

1 事業内容

【行動指針】 ・スポーツに親しむ習慣や意欲・能力の向上を図るため、スポーツ推進委員会を中心とした魅力的なスポーツイベントを充実させます。 【事業概要】 ○各世代に応じた各種スポーツ大会の支援 保健体育費総務費 3,604,000円 ・「佐々町少年スポーツ大会」、「郡民体育大会」、「佐々町スポーツ大会」等を開催しました。また、「ジョギングフェスティバルinさざ」については、3月に開催しました。 ・ジョギングフェスティバルinさざ開催補助金 2,925,000円 ・3月に開催しました。前年度と比較して参加者は減少しました。 参加 1,236名 ・北松浦郡スポーツ協会負担金（構成町：佐々町・小値賀町）215,000円 ・2町で行う郡民体育大会や県民体育大会に係る費用を補助し、スポーツ協会の活動の充実を図りました。 ・郡民体育大会参加 60名 ・佐々町スポーツ大会開催補助金 100,000円 ・スポーツ協会に加盟している競技部の競技力向上と底辺拡大を目指すとともにスポーツを通じて町民の親睦と融和を図ることと県民体育大会参加の強化大会を目的として、佐々町スポーツ大会の開催しました。 参加 470名 ・町内ナイターソフトボール大会開催補助金 66,000円 ・町内各種団体の親睦、交流を目的として大会開催をしました。 ・5～7月にかけて開催し、7チーム21試合の参加実績となりました。 ・サンビレッジ・さざソフトテニス大会開催補助金 66,000円 ・ソフトテニス愛好者の底辺拡大並びに親睦を図るとともに、技術の向上を目的として大会を開催しました。 ・町内バドミントン大会 66,000円 ・バドミントン愛好者の底辺拡大並びに親睦を図るとともに、技術の向上を目的として大会を開催しました。 ・佐々町少年スポーツ大会開催補助金 100,000円 ・スポーツを通して少年の健全育成と体力増進を図ること及び大会を通して、本町のスポーツ少年団に加盟している他の競技部との相互交流を促進することを目的とし、大会を開催しました。 参加 797名 ・9競技を開催しました。（空手道、テコンドー、ソフトテニス、剣道、ミニバスケットボール、サッカー、ソフトボール、バレーボール、軟式野球） ・さざジュニアサッカーフェスティバル開催補助金 66,000円 ・ジュニアサッカーの底辺拡大並びに親睦を図るとともに、技術の向上を目的として大会を開催しました。 ○総合型地域スポーツクラブの育成 地域子ども教室推進費 200,000円 ＜佐々町子スポーツ塾＞ ボランティアスタッフ18名 参加者延べ人数222名 ・陸上教室や体力テスト、ニュースポーツ（ユニカール、ホッパなど）など、5月～3月にかけて10回実施し、合計延べ222名の参加がありました。 【歳入財源内訳】 県支出金 決算書P36 地域子ども教室推進事業費補助金 200,000円

2 コスト (単位：円)

区分	R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費	2,520,000	3,702,000	3,804,000	3,927,000
財源	国庫支出金			
	県支出金	150,000	200,000	200,000
	その他特定財源			
	地方債			
	一般財源	2,370,000	3,552,000	3,604,000
				3,727,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	総合型地域スポーツクラブ会員数 【総合戦略】【累】	195人	人	目標	-	-	-	-	200	53%
				実績	91	95	95	105	-	
成果	スポーツイベントの参加者数 【総合戦略】【単】	908人/年	人	目標	920/年	920/年	920/年	920/年	920/年	144%
				実績	1,077	1,300	1,377	1,327	-	
成果	ジョギングフェスティバルの 参加者数（平成30年度）【単】	1,809人/年	人	目標	2,000/年	2,000/年	2,000/年	2,000/年	2,000/年	62%
				実績	0	1,700	1,287	1,236	-	
成果	体育施設の利用者数【単】	117,428人/年	人	目標	119,000人/年	119,000人/年	119,000人/年	119,000人/年	119,000人/年	90%
				実績	89,677	103,568	109,101	107,234	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している ☒ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）		
各種大会の開催により、町内のスポーツ振興の貢献に努めましたが成果指標の達成には至りませんでした。ジョギングフェスティバルでは、多くの人が参加するようにイベント内容や周知方法等を検討していきます。今後も、各団体と協力しながら事業を進めていきます。	評価の結果	A 業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

委員会意見
特記事項なし
委員会評価
現状維持 ・ 見直し ・ 廃止

事業番号		2 - 4 - 1			担当課	教育委員会	担当班	社会教育班	
事業名		スポーツ少年団・体育協会活動の 育成・支援							
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち				予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標	誰もが気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しめる環境を充実する					款	10	教育費
	法令根拠条例等	社会教育法					項	6	保健体育費
	個別計画	第三期 佐々町教育振興基本計画					目	1	保健体育総務費

1 事業内容

【行動指針】

- ・子どもの頃から健やかな心身を育成し、スポーツを通じた町民の健康増進とまちの活力を創出するため、スポーツ少年団やスポーツ協会など各種スポーツ団体に対する支援を行います。

【事業概要】

- ・スポーツ協会に加入している13競技部（278名分）に対して活動実績に応じて補助金を交付しました。各部における活動や、各種大会に要する経費に活用され、活動の充実が図られました。（軟式野球、ソフトテニス、バレーボール、卓球、剣道、弓道、ソフトボール、バドミントン、サッカー、硬式テニス、太極拳、空手道、エアロビック）
2,300,000円
- ・スポーツ少年団に加入している9競技12単位団（219名分）に対して活動実績に応じて補助金を交付し、各部における活動や、各種大会に要する経費に活用され、活動の充実が図られました。（少年空手道、少年剣道、わしおバレーボール、大岳バレーボール、口石フットボール、佐々サッカー、NSBCミニバス（男・女）、佐々小ソフトボール、サンボーイズ（軟式野球）、佐々ジュニアソフトテニス、佐々テコンドー）
750,000円

【少年スポーツ大会の様子】



【町スポーツ大会の様子】



2 コスト （単位：円）

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		2,769,000	2,969,000	3,050,000	3,000,000
財源	国庫支出金				
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	2,769,000	2,969,000	3,050,000	3,000,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	総合型地域スポーツクラブ会員数【総合戦略】【累】	195人	人	目標	-	-	-	-	200	53%
				実績	91	95	95	105	-	
成果	スポーツイベントの参加者数【総合戦略】【単】	908人/年	人	目標	920/年	920/年	920/年	920/年	920/年	144%
				実績	1077	1,300	1,377	1,327	-	
成果	ジョギングフェスティバルの参加者数（平成30年度）【単】	1,809人/年	人	目標	2,000/年	2,000/年	2,000/年	2,000/年	2,000/年	62%
				実績	0	1,700	1,287	1,236	-	
成果	体育施設の利用者数【単】	117,428人/年	人	目標	119,000人/年	119,000人/年	119,000人/年	119,000人/年	119,000人/年	90%
				実績	89,677	103,568	109,101	107,234	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
有効性	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☒ 目標を達成している	
		☐ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
効率性	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）

スポーツ協会、スポーツ少年団ともに年間多くの活動に貢献できたと評価できます。また、スポーツ協会では1競技部を増やすことができました。
活動意欲を持続するためにも、引き続き両団体と連携を図りながら育成、支援に力を入れていきます。

評価の結果	A	業務の内容は適切である
-------	---	-------------

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		2 - 4 - 2		担当課	教育委員会	担当班	社会教育班		
事業名		総合型地域スポーツクラブの育成							
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち				予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標	誰もが気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しめる環境を充実する					款	10	教育費
	法令根拠条例等	社会教育法					項	5	社会教育費
	個別計画	第三期 佐々町教育振興基本計画					目	11	地域子ども教室推進事業費

1 事業内容

【行動指針】

- ・総合型地域スポーツクラブの子どもから大人までを対象としたスポーツ・レクリエーション活動を支援します。

【事業概要】

- ・町内の総合型地域スポーツクラブである、さざ俱樂部に佐々っ子土曜プログラム「佐々っ子スポーツ塾」の実施を委託し、事業を実施しました。（決算額 200,000円）【再掲】

<総合型地域スポーツクラブ>

子どもから高齢者まで、様々なスポーツを愛好する人たちが地域住民により自主的、主体的に運営されるスポーツクラブで、本町においては、9クラブ（テニス、バドミントン、ジュニア陸上&ニュースポーツ、バレエエクササイズ、ピラティス、エアロビクス、ポールピラティス、経路ヨガ、書き方教室）が1～4回/月のペースで活動を行っています。

<佐々っ子スポーツ塾> ボランティアスタッフ18名 参加者計222名【再掲】

- ・5月…基本的な運動、短距離走 参加24名
- ・6月…陸上教室（講師：田端健児氏／元オリンピック陸上選手） 参加19名
- ・7月…ゲーム活動（ユニカール・的あて） 参加25名
- ・9月…ゲーム活動（ボッチャ、フライングディスク） 参加26名
- ・10月…ゲーム活動（バドミントン） 参加24名
- ・11月…レクリエーション活動（ボールや道具を使って） 参加27名
- ・12月…ゲーム活動（キックベースボール） 参加16名
- ・1月…レクリエーション活動（ボールや道具を使って） 参加16名
- ・2月…ゲーム活動（ボッチャ、ユニカール） 参加22名
- ・3月…自由遊び（これまでのニュースポーツや大縄跳び） 参加23名

<サマーキャンプ>

- ・1泊2日のキャンプをスポーツ推進委員会を中心に農業体験施設で行いました。

<InBody・体力測定>

- ・スポーツ推進委員の主催により、町民体育館において町民を対象とした体力測定と体の筋肉量や脂肪量などの分析が測定できる機械（InBody）を使って身体の総合評価を行いました。参加57名

体力測定の様子



サマーキャンプの様子



【歳入財源内訳】

県支出金 : 決算書P36 地域子ども教室推進事業費補助金 200,000円

2 コスト (単位: 円)

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		150,000	150,000	200,000	200,000
財源	国庫支出金				
	県支出金	150,000	150,000	200,000	200,000
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源				

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	総合型地域スポーツクラブ会員数 【総合戦略】【累】	195人	人	目標	-	-	-	-	200	53%
				実績	91	95	95	105	-	
成果	スポーツイベントの参加者数 【総合戦略】【単】	908人/年	人	目標	920/年	920/年	920/年	920/年	920/年	144%
				実績	1077	1,300	1,377	1,327	-	
成果	ジョギングフェスティバルの 参加者数（平成30年度）【単】	1,809人/年	人	目標	2,000/年	2,000/年	2,000/年	2,000/年	2,000/年	62%
				実績	0	1,700	1,287	1,236	-	
成果	体育施設の利用者数【単】	117,428人/年	人	目標	119,000人/年	119,000人/年	119,000人/年	119,000人/年	119,000人/年	90%
				実績	89,677	103,568	109,101	107,234	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している ☒ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）		評価の結果	
総合型地域スポーツクラブに委託した、地域子ども教室推進事業等では、運動が苦手な子どもも楽しく運動することができました。また、町民を対象とした体力測定を行い、健康、運動に対する認識を深めることができました。活動の結果、会員数の増加に繋げていくことができました。今後も総合型スポーツクラブの活動の充実を図っていきます。		A	業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業評価シート

(令和 6 年度)

【決算書P194】

事業番号		2 4 3			担当課	教育委員会	担当班	社会教育班	
事業名		体育施設の適切な維持管理							
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち				予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標	誰もが気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しめる環境を充実する					款	10	教育費
	法令根拠条例等	社会教育法					項	6	保健体育費
	個別計画	第三期 佐々町教育振興基本計画、佐々町公共施設等総合管理計画					目	2	体育施設費

1 事業内容

【行動指針】

・サン・ビレッジさざ、体育館などにおけるサービス内容や維持管理コスト等を踏まえ、公共施設等総合管理計画等に沿った適切な維持管理、運営手法の検討を進めます。

【事業概要】

・体育施設修繕料 1,425,952円
各体育施設の修繕を行いました。

○令和6年度 体育施設利用実績

場 所		回 数	人 数
町民体育館		1,812	28,221
北部地区体育館		641	6,509
南部地区体育館		494	4,259
北部グラウンド		83	954
千本公園グラウンド		679	11,867
サンビレッジさざ	グラウンド	540	20,923
	テニスコート（屋内）	3,222	18,732
	テニスコート（屋外）	1,189	5,800
佐々中学校	グラウンド	117	1,637
	体育館	431	5,621
佐々小学校 体育館		14	284
口石小学校 体育館		150	2,028
合計		9,372	106,835

2 コスト (単位：円)

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		125,737,400	39,970,792	1,425,952	950,000
財源	国庫支出金	284,600			
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債	111,900,000	34,100,000		
	一般財源	13,552,800	5,870,792	1,425,952	950,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	総合型地域スポーツクラブ会員数【総合戦略】【累】	195人	人	目標	-	-	-	-	200	53%
				実績	91	95	95	105	-	
成果	スポーツイベントの参加者数【総合戦略】【単】	908人/年	人	目標	920/年	920/年	920/年	920/年	920/年	144%
				実績	1077	1,300	1,377	1,327	-	
成果	ジョギングフェスティバルの参加者数（平成30年度）【単】	1,809人/年	人	目標	2,000/年	2,000/年	2,000/年	2,000/年	2,000/年	62%
				実績	0	1,700	1,287	1,236	-	
成果	体育施設の利用者数【単】	117,428人/年	人	目標	119,000人/年	119,000人/年	119,000人/年	119,000人/年	119,000人/年	90%
				実績	89,677	103,568	109,101	107,234	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
有効性	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している	
		☒ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
効率性	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）

施設の適正な維持管理を図ることができ、安全に利用できる環境に努めました。しかし、体育施設の利用者は微減となりましたが、引き続き、計画に沿って施設の長寿命化、維持管理を行い利用者の増加に努めていきます。

評価の結果

A

業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

「2-4-3 体育施設の適切な維持管理」に関連する備品購入費【体育施設費（10.6.2）】（決算書P196）

節		説明	備品名称及び数量	決算額(円)
17	備品購入費	施設用備品	背負刈払機 1台	77,000
			トレーニング室用ベンチ台	74,800
説明 計				151,800

【このページは空白です】

事業番号		7 - 2 - 3		担当課	教育委員会	担当班	社会教育班		
事業名		人権教育の推進							
総合計画上の位置づけ	基本目標	「情報共有・協働」のみんなのまち				予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標	すべての町民が尊重され、生きがいのある社会をつくる					款	10	教育費
	法令根拠条例等	社会教育法					項	5	社会教育費
	個別計画	佐々町人権教育・啓発基本指針					目	1	社会教育総務費

1 事業内容

【行動指針】

- ・自分の大切さとともに、他人の大切さを認めることができる人権感覚を養うためには、児童生徒に他人の気持ちが分かる想像力、共感力、適切かつ豊かな表現力、コミュニケーション能力などを育む必要があります。確かな人権感覚を育むため、学校全体の取組を推進します。
- ・温もりと心の豊かさが実感できる人権尊重社会の実現に向けて、社会教育講座で人権をテーマにした講話を開催するなど、人権教育の推進に取り組みます。

【事業概要】

- ・学校の取組
学校の全ての教育活動を通して、人権の意義や重要性について理解させるとともに、8月9日の平和集会に向けた取組や人権週間への取組など、人権や平和について深く考え学ぶ機会を設けました。
- ・令和6年度長崎県人権教育研究大会の開催及び人権教育研修等の後援
8月1日・2日に長崎県等と共に主催として「第48回長崎県人権教育研究大会」を佐々町及び小値賀町で開催しました。また、人権教育に対する研修会等の後援をし、関係団体との関係強化に努めました。
- ・人権講話の実施（令和6年度決算額0円）【10.5.1.7.】の一部
教育委員会主催講座である明生大学講座とさざんか教室の合同講座として、12月12日に「気づきから学びへ」と題し、温もりと心豊かな誰もが生きやすい社会の実現のために何ができるかを考え学びました。参加人数は合計26人でした。



2 コスト (単位：円)

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		34,000	54,000	0	20,000
財源	国庫支出金				
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	34,000	54,000	0	20,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
活動	人権啓発事業の実施数【累】	4事業	事業	目標	-	-	-	-	5	100%
				実績	4	5	5	5	-	
成果	男女共同参画啓発ブースの 来場者数【単】	908人/年	人	目標	1,000/年	1,000/年	1,000/年	1,000/年	1,000/年	44%
				実績	0	689	770	440	-	
成果	社会教育講座における人権講話 の受講者数（1講座平均）【単】	45人	人	目標	50	50	50	50	50	52%
				実績	25	28	31	26	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している ☒ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☒ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）		評価 の 結果	A	業務の内容は適切である
人権・同和問題に対して、理解を深めるべく今年度も活動してきました。関係団体との連携強化を図り、後援や研修への参加を行いました。また、教育委員会主催講座では年度を通して人権関係の講話や講座を必ず開講するようにしています。成果指標を達成できるよう人権・同和問題に対して、更なる周知を図ります。				

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		7 - 1 - 4		担当課	議会事務局	担当班				
事業名		町民に開かれた議会								
総合計画上の位置づけ	基本目標	「情報共有・協働」のみんなのまち				予算科目	会計	一般会計		
	戦略目標	情報を適切に管理し、積極的な公開・共有化を進める					款	1	議会費	
法令根拠条例等		-					項	1	議会費	
個別計画		-					目	1	議会費	

1 事業内容

【行動指針】

・議会だよりや公式ホームページ等を利用し、多くの町民に町議会を身近に感じていただける、読みやすい、わかりやすい記事となるよう、効果的な情報発信を行います。

・多くの町民に町議会に関心を持っていただけるよう、本会議の傍聴機会を増やし、傍聴しやすい議場等の環境を整備します。

【事業概要】

○議会だよりの発行（決算額 694,980円）

議会の内容（本会議、委員会活動等）を分かりやすく効果的に伝えるため、年4回定例会毎に発行しました。

※発行部数：5,000部×4回＝20,000部（5月、8月、12月、2月）

町政に対する提案等の「町民の声」として受付を行った7件のうち6件を議会だよりへ掲載しました。

より多くの方の手に取っていただけるよう、町内の各施設（約20か所）へ議会だよりを設置し、発行毎にマチイロ（行政情報アプリ）への登録を行いました。

「町村議会広報全国コンクール」への応募や「町村議会広報クリニック」への参加等、議会だよりの編集技術の向上に積極的に取り組みました。

また、若者に議会へ興味をもっていただけるよう、県立大学生や高校生のインターンシップを積極的に受け入れ、体験した感想を議会だよりへ掲載しました。

新たな取り組みとして、令和7年度に予定されている町議会議員選挙に向けて、多様な人材に立候補していただけるよう、2回に分けて特集記事を掲載しました。

○ホームページ、SNSの活用

本会議の内容（開催、結果）を効果的に伝えるため、ホームページへの掲載とあわせて、LINEによる通知を行いました。

議案の審査過程を広く公開するため、令和5年度から、本会議の会議録に加え、付託となった委員会の会議録についてもホームページへ掲載しました。

※議会サイトアクセス件数（R6）：18,433件

【参考/（R5）：13,068件】

○ONBCデータ放送の活用

本会議の開催情報を効果的に伝えるため、データ放送を活用しました。

○防災行政無線の活用

本会議の開催情報を効果的に伝えるため、防災行政無線を活用しました。

○傍聴人

年間延べ70人の方が本会議を傍聴されました。

傍聴席入り口に「佐々町議会アンケート」を設置し、意見や感想などを聴取しました。議会や町政に対する要望など、2件の貴重なご意見をいただき、議員間で共有しました。

【傍聴人内訳】

R6. 6月定例会：12人	R7. 2月臨時会：4人
R6. 9月定例会：10人	R7. 3月定例会：17人
R6. 12月定例会：12人	R7. 3月臨時会：12人
R7. 1月臨時会：3人	



2 コスト（単位：円）

区分		R4 決算	R5 決算	R6 決算	R7 予算
事業費		618,640	689,700	694,980	1,056,000
財源	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0
	一般財源	618,640	689,700	694,980	1,056,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	佐々町ホームページアクセス件数【単】	340,639件/年	件	目標	450,000/年	450,000/年	450,000/年	450,000/年	450,000/年	116%
				実績	563,424	589,627	523,438	523,145	-	
成果	SNS（LINE）フォロワー数【累】	-	人	目標	-	-	-	-	1,500	177%
				実績	1,519	2,013	2,261	2,662	-	
成果	メール配信登録件数【累】	464件	件	目標	-	-	-	-	700	113%
				実績	649	708	738	792	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか）	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☐ 妥当である	
		☒ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
有効性	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☒ 妥当である	2
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☒ 目標を達成している	
		☐ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
効率性	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☐ 適切である	3
		☒ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☐ 適切である	
		☒ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☐ 効率的である	3
		☒ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☒ 適切である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）		評価の結果	業務の内容は適切である
議会だよりは年4回発行し、写真やイラストを多く使用したり、用語解説を掲載するなど工夫した紙面づくりが行われました。より多くの方に町議会に興味を持っていただけるよう、町内施設（金融機関、町内スーパー、コンビニエンスストアなど）への設置や、マチイロ（行政情報アプリ）への登録を行いました。 また、議員の活動内容を知っていただくため、議員が出席した会議や研修会などの様子をタイムリーにホームページに掲載し、積極的に情報発信を行いました。 本会議の動画配信やホームページの内容の充実など、町議会をより身近に感じいただけるよう、引き続き調査・研究を行います。		A	業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止

事業番号		6 2 - 3			担当課	監査	担当班	監査		
事業名		効果的な予算の編成及び運用								
総合計画上の位置づけ	基本目標	「行政・財政」が持続可能なまち				予算科目	会計	一般会計		
	戦略目標	健全な財政運営を行う					款	2	総務費	
法令根拠条例等		佐々町監査基準					項	6	監査委員費	
個別計画		-					目	1	監査委員費	

1 事業内容

【行動指針】

- ・限られた財源を効率的に配分するため、最小の経費で最大の効果を出していくことを原則とし、優先度を考慮した計画的な予算を編成します。

【事業概要】

○監査の実績

年間計画に基づき以下の監査等を実施しました。

(1) 例月現金出納検査：12回

(2) 財務監査：①中間・完成工事監査

②令和6年度当初予算及び補正予算における主要事業について

- ・ひきこもり等支援活動（居場所づくり）支援事業
- ・育児支援事業（産婦健康診査）
- ・タブレット端末導入事業
- ・畑地化促進事業
- ・学ば保育士等応援事業
- ・地域脱炭素に向けた重点対策加速化事業
- ・地域産業雇用創出チャレンジ支援事業（移住支援金）
- ・空き店舗等活用促進事業
- ・庁舎建設事業

(3) 行政監査：①プロポーザル方式の契約について

- ・広報紙作成業務委託
- ・放課後児童健全育成事業運営業務委託（学童保育）

②災害時の物資の備蓄及び管理について

③公用車の管理及び安全対策について

(4) 財政援助団体等監査：令和6年度に交付された補助金及び交付金について

- ・佐々町スポーツ協会育成補助金
- ・佐々町スポーツ少年団育成補助金
- ・佐々町文化協会育成補助金
- ・佐々町観光協会補助金
- ・佐々町花火実行委員会活動補助金

(5) 一般会計及び特別会計の決算審査・基金運用審査・健全化判断比率等審査

(6) 公営企業会計の決算審査・健全化判断比率等審査

(7) 財務書類4表について（担当課からの報告）：令和4年度分の報告、令和5年度分の進捗状況の報告

以上の監査等を行い、(2)から(6)については、告示板、町ホームページ及びLINEへ監査結果を公表しました。

2 コスト (単位：円)

区分		R 4 決算	R 5 決算	R 6 決算	R 7 予算
事業費		2,171,164	2,072,030	2,380,552	2,523,000
財源	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0
	一般財源	2,171,164	2,072,030	2,380,552	2,523,000

3 指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
活動	経常収支比率【単】	80.7% (H30:90.7%)	%	目標	95未満	95未満	95未満	95未満	95未満	104%
				実績	80.3	90.2	91.0	91.5	-	
活動	実質公債費比率【単】	8.9%	%	目標	15未満	15未満	15未満	15未満	15未満	179%
				実績	8.7	8.6	8.8	8.4	-	

4 評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 (住民のニーズ、法令など事業継続の必要性はあるか)	☒ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の適切性 (住民のニーズに対して、意図が適切であるか)	☐ 妥当である	
		☒ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
有効性	・自治体関与の必要性 (自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	☒ 妥当である	2
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の達成度 (評価指標や意図をどの程度達成しているか)	☒ 目標を達成している	
		☐ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
効率性	・対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	☐ 適切である	3
		☒ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	☐ 適切である	
		☒ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	☐ 効率的である	3
		☒ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	☒ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	☒ 適切である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）

年間計画に基づき、予算の執行、事業実施が適正かつ合理的、効率的に行われているかについて、代表監査委員及び議選監査委員それぞれの視点で効果的に監査が行われました。各監査結果については、町ホームページ等に加えてLINEでの公表も行いました。

また、研修や意見交換会等に積極的に参加し、委員および事務補助職員の知識を高めるとともに、的確な指摘と指導に向けての取り組みを進めました。

今後も年間計画に基づき、監査手法について改善すべき点がないか検討しながら、住民の視点に立って各監査を実施していきます。

評価の結果

A

業務の内容は適切である

5 今後の方向性

☐ 事業拡大・費用拡大
☐ 事業拡大・費用維持
☐ 事業拡大・費用縮小
☒ 事業維持・費用維持
☐ 事業維持・費用縮小
☐ 事業縮小・費用縮小
☐ 休止
☐ 終了廃止